

四国横断自動車道 すくも 宿毛 うちうみ ~ 内海

第3回 説明資料

平成31年2月7日

国土交通省 四国地方整備局

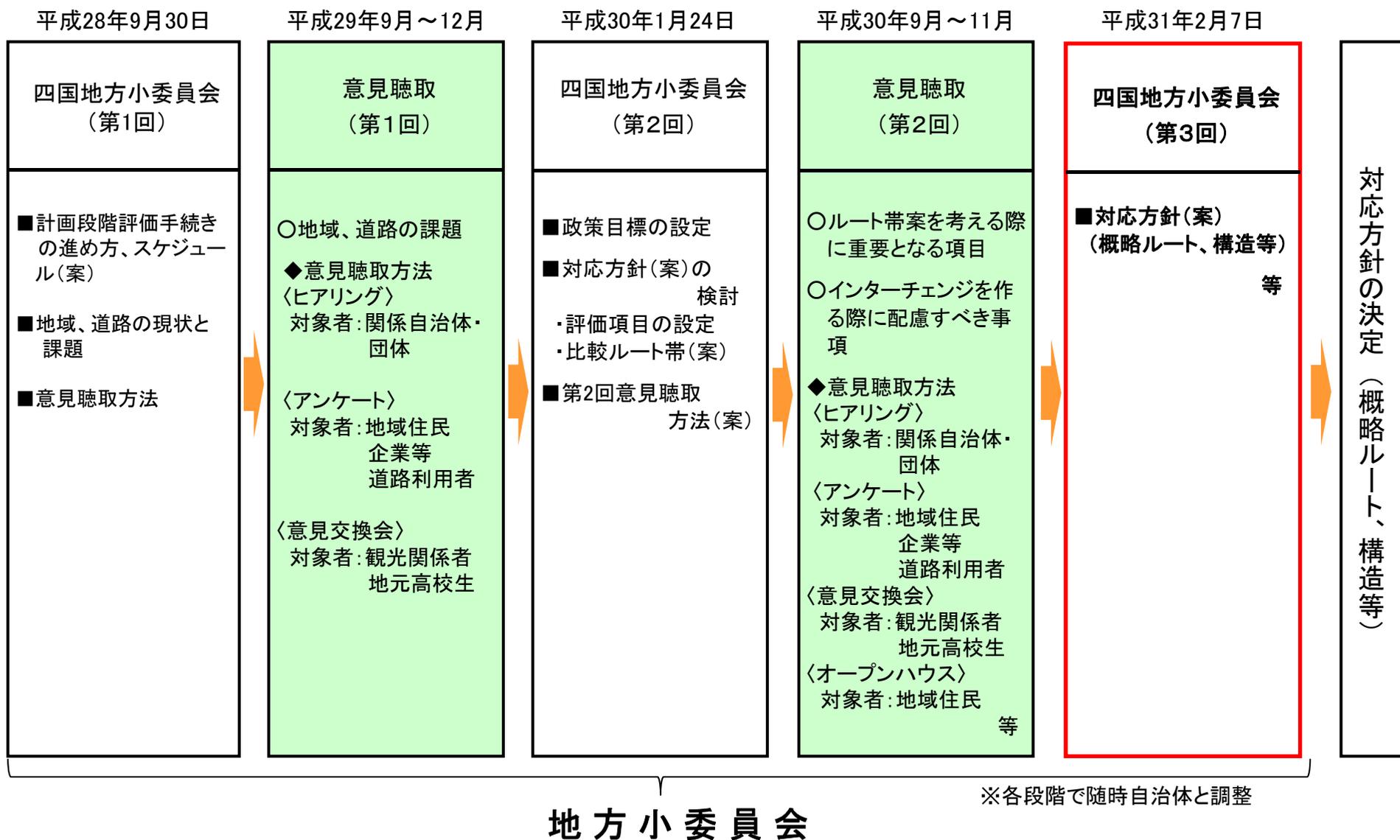
目次

1. 計画段階評価の進め方・スケジュール(案) …	2
2. 前回の審議内容 …	4
3. 第2回意見聴取の結果 …	6
4. 対応方針(素案)の検討 …	23
5. 自治体への意見照会結果 …	32
6. 対応方針(案)のまとめ …	37

1. 計画段階評価の進め方・スケジュール(案)

1. 計画段階評価の進め方・スケジュール(案)

地域住民や道路利用者の意見を聴きながら、道路計画〔概略ルート、構造等〕について検討を行う。



2. 前回の審議内容

第2回四国地方小委員会の概要

■実施日

平成30年1月24日(水)

■主な議題

①第1回意見聴取の結果

②対応方針(案)の検討

③第2回意見聴取方法(案)

第2回四国地方小委員会での主な指摘事項と対応状況

指摘事項	対応状況
5段階評価における1.「そう思う」～5.「そう思わない」の数値表現については、日本人の心理に合わせて「そう思う」を5とすべき。	第2回意見聴取方法(案)の問2について、1～5の数字を選ぶ回答方法から、該当する選択肢に○をつける回答方法に変更しアンケート用紙を作成。
「早く開通すること」は、事業化後、整備に必要となる時間について聞いていることが分かるよう表現を工夫すること。	工事着手後の整備期間であることが分かるように「整備に要する期間が短いこと」という表現でアンケート用紙を作成。
「国道の代わりとして利用できること」については、現道改良を望む質問か別ルートを望む質問かを判断できる問いとすべき。	別ルートを望む質問か判断できるように「国道56号が災害や事故等で通行止めになった場合に、国道56号の代わりとして利用できること」という表現でアンケート用紙を作成。
政策目標の項目と道路整備に配慮する項目は分けて意見聴取をすべき。	「ルート帯を考えるうえで重要と考える事項」、「ルート帯を考えるうえで配慮すべき事項」の2つの質問に分けてアンケート用紙を作成。
ヒアリングの際は、地域のまちづくりの方向性も含めて聞いて欲しい。	団体ヒアリングや意見交換会において、将来のまちづくりの方向性などを聴取。
30～40代の起業を考えている世代から、ヒアリングして欲しい。	意見交換会において、若手事業者として中村青年会議所・愛南町の観光業・飲食店業・地域おこし協力隊の方々に参加していただき、意見を聴取。
ヒアリングやグループミーティングでは、模型やバーチャル映像、他地域での事例等を用い、住民にとって分かりやすいものとしてほしい。	地形図の代わりに航空写真を活用し、通過するルート帯を分かりやすくした。

3. 第2回意見聴取の結果

3. 第2回意見聴取の結果(意見聴取の実施概要)

○意見聴取は、説明会(オープンハウス)を開催し、アンケート調査、ヒアリング調査および意見交換会を以下のとおり実施した。

	対象者	実施期間	回収方法	実施概要	回答状況
アンケート調査	地域住民	平成30年10月2日(火) ～10月22日(月)	郵送回収	宿毛市・愛南町の全世帯に配布(19,824世帯)	回答数:5,749票 (回収率:29.0%)
	企業等	平成30年10月2日(火) ～10月22日(月)	郵送回収	宿毛市・愛南町の全事業所に配布(2,568事業所)	回答数:938票 (回収率:36.5%)
	道路利用者	平成30年10月2日(火) ～10月22日(月)	郵送回収 ヒアリング時回収	道の駅:みしょうMIC、すくも、みま、うわじまきさいや広場、津島やすらぎの里、 大月、めじかの里土佐清水にて配布 観光施設:フレッシュ本松、三原村農業構造改善センター、物産館サンリバー四万十、 宿毛まちのえき林邸(10/20 すくもびいなす祭にて配布)	回答数:1,488票 郵送:781票 ヒアリング時:707票
	道路利用者 (Web)	平成30年10月2日(火) ～10月22日(月)	Web上で回収	大洲河川国道事務所、中村河川国道事務所、 愛媛県、高知県、愛南町、宿毛市のHP上にアンケートを掲載	回答数:406票
ヒアリング調査	自治体及び 団体代表者	平成30年9月14日(金) ～10月12日(金)	インタビュー 形式での ヒアリング	【自治体】 愛媛県、高知県、愛南町、宿毛市、宇和島市、四万十市、 土佐清水市、鬼北町、松野町、黒潮町、大月町、三原村 【各団体等】 商工会議所、商工会、青年会議所、消防署、警察、バス事業者、農協、漁協、 観光協会、医療関係、旅行会社、道の駅、観光施設、 市町村より地域代表として推薦いただいた地域の活動団体 【圏域外】 大手旅行代理店、トラック協会、愛媛ふるさと暮らし応援センター、 高知県産業振興推進部移住促進課、愛媛県観光物産協会、高知県観光コンベンション協会	【自治体】 12自治体 【各団体等】 70団体
説明会	地域住民	平成30年10月11日(木) ～10月14日(日) 平成30年10月18日(木) ～10月21日(日)	-	宿毛市及び愛南町の住民の方などを対象に説明会(オープンハウス)を開催 ・宿毛市:宿毛市役所 1階ロビー、フジ宿毛店 (のべ4日間) ・愛南町:愛南町役場 町民サロン、A・MAX愛南店 (のべ4日間)	来訪者366人 (うち、72人が アンケートに回答)
意見交換会	観光関係者	平成30年11月7日(水)	グループ ミーティング	宿毛市・愛南町等の産業・観光関係者、若手事業者	参加者:32人
	南宇和高校	平成30年10月30日(火)		3年生1クラスの全員参加で実施	参加者:21人
	宿毛工業高校	平成30年11月13日(火)		2年生1クラスの全員参加で実施	参加者:19人

3. 第2回意見聴取の結果(アンケートの広報状況)

○新聞広告、ポスター、ホームページ、Facebook、Twitter、ケーブルテレビ、防災行政無線により、アンケートの広報を実施した。

▼新聞広告によるアンケート調査の周知

○愛媛新聞 (平成30年10月10日 (水))

四国横断自動車道 宿毛～内海間における道路計画に関する 第2回 アンケート調査

西国横断自動車道 宿毛～内海間の道路計画の策定にあたり、地域の皆さまや道路を利用される方からご意見を聞かせいただき、道路計画に反映するためのアンケート調査を実施しておりますので、ご協力をお願いします。

アンケート実施方法

アンケート実施期間: 平成30年10月22日(月)まで

実施方法: 道路沿いの案内板、新聞掲載、インターネット(Web)アンケート

お問い合わせ先: 大洲河川国道事務所 計画課 TEL: 0893-24-6508

中村河川国道事務所 企画課 TEL: 0880-34-7307

実施主体: 国土交通省 四国地方整備局 大洲河川国道事務所・中村河川国道事務所

▼ポスター掲示によるアンケート調査の周知

○愛南町役場



○めじかの里土佐清水



▼ホームページへのアンケートバナーの掲載

○中村河川国道事務所ホームページ ○愛南町ホームページ



四国横断自動車道(宿毛～内海)に関するアンケート
平成30年10月22日(月)まで

第2回 四国横断自動車道 宿毛～内海間に関するアンケート
実施期間 平成30年 10月22日(月)まで
ご協力をお願いします

▼Facebook、Twitter、ケーブルテレビによるアンケート調査の周知

○宿毛市役所 Facebook



○大洲河川国道事務所 Twitter



○愛媛CATV テレビCM



3. 第2回意見聴取の結果(ヒアリングの実施状況)

○自治体や各団体及び道路利用者へインタビュー形式でのヒアリングを実施した。

▼自治体や各団体へのヒアリング状況

○愛南町役場
平成30年10月12日(金)



○愛南町商工会
平成30年9月21日(金)



○宿毛市役所
平成30年10月1日(月)



○宿毛市観光協会
平成30年9月25日(火)



▼道路利用者へのヒアリング状況

○道の駅みしょうMIC
平成30年10月13日(土)



○道の駅みま
平成30年10月13日(土)



○道の駅すくも
平成30年10月20日(土)



○宿毛まちなきのえき林邸
平成30年10月20日(土)



3. 第2回意見聴取の結果(説明会(オープンハウス)の開催状況)

- アンケート調査の実施にあたり、地域住民の方などを対象として、宿毛～内海間の各ルート帯案の計画内容やアンケートの内容についての説明会(オープンハウス)を宿毛市及び愛南町で開催した。
- 説明会(オープンハウス)の開催にあたっては、案内チラシをアンケート票配布封筒や自治体広報紙に同封し、地域住民の方などへ周知を図った。

▼説明会(オープンハウス)の開催概要

地域	開催場所	開催期間	開催時間	来訪者数		
宿毛市	宿毛市役所 1階ロビー	10月11日(木) 10月12日(金)	10:00～17:00	72名	109名	合計 366名
	フジ 宿毛店	10月13日(土) 10月14日(日)		37名		
愛南町	愛南町役場 町民サロン	10月18日(木) 10月19日(金)		135名	257名	
	A・MAX 愛南店	10月20日(土) 10月21日(日)		122名		

▼説明会(オープンハウス)の周知

○案内チラシを宿毛市及び愛南町の全世帯・全事業所へ配布

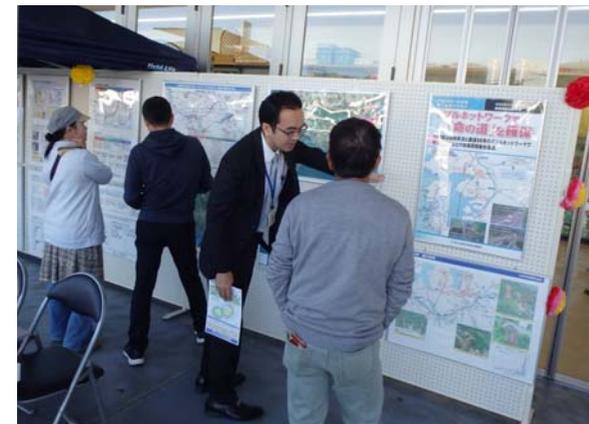


▼説明会(オープンハウス)の開催状況

○宿毛市 1階ロビー
平成30年10月12日(金)の状況



○A・MAX 愛南店
平成30年10月21日(日)の状況



3. 第2回意見聴取の結果(意見交換会の開催状況)

○意見聴取の実施にあたり、地域の産業・観光関係者や若手事業者、高校生を対象として、宿毛～内海間の「ルート帯を考える際に重要とする事項」や「インターチェンジを造る際に配慮すべき事項」について話し合う意見交換会を開催した。

▼意見交換会の開催概要

地域	開催場所	開催日	開催時間	参加者数		
愛南町	愛媛県立南宇和高等学校	10月30日(火)	8:55~10:45	3年生1クラス	21名	合計 72名
宿毛市	高知県立宿毛工業高等学校	11月13日(火)	9:55~12:45	2年生1クラス	19名	
宿毛市・愛南町	宿毛文教センター	11月7日(水)	19:00~20:30	宿毛市・愛南町の産業・観光関係者、若手事業者など	32名	

▼意見交換会開催状況

○愛媛県立南宇和高等学校
平成30年10月30日(火)



○高知県立宿毛工業高等学校
平成30年11月13日(火)



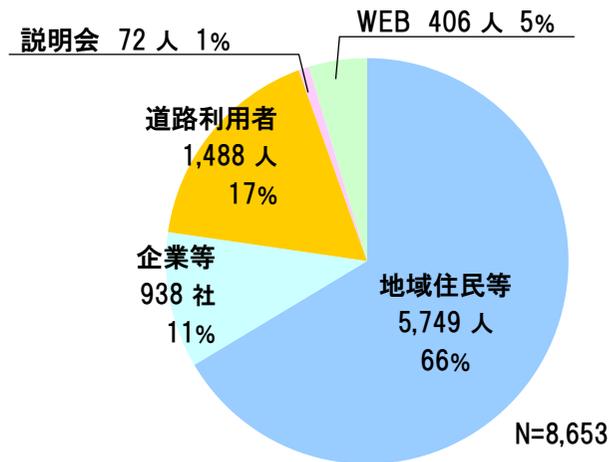
○産業・観光関係者、若手事業者による意見交換会
平成30年11月7日(水)



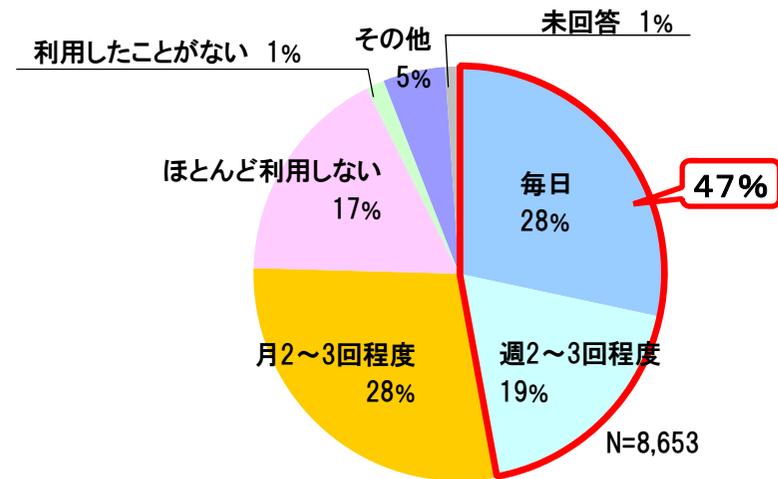
3. 第2回意見聴取の結果(アンケート結果:回答者の属性)

- 地域住民等5,749人、企業等938社、道路利用者1,488人、説明会来場者72人、WEB406人から回答をいただいた。
- 回答者の約9割が、対象地域である愛南町、宿毛市に居住(企業は所在地)。
- 回答者の約5割が、国道56号 宿毛～内海間を「週2～3回程度以上の頻度で利用」と回答。
- 利用目的は、「仕事と通勤・通学」が約3割、「家事・買い物」が約3割、「観光・レジャー」が約2割と多様な状況。

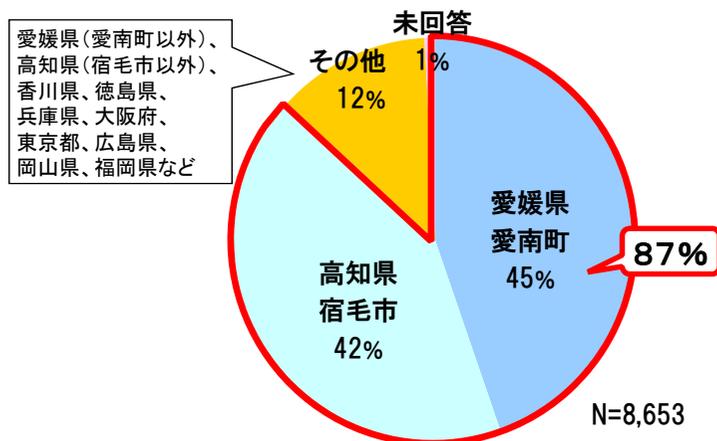
▼アンケート回収結果



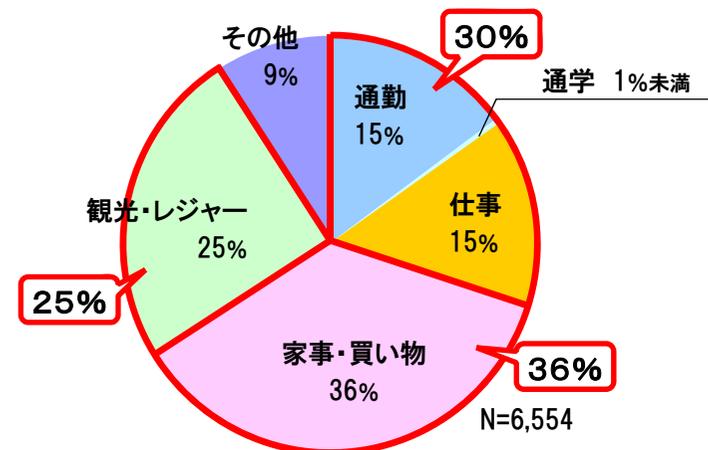
▼国道56号 宿毛～内海間の利用頻度



▼回答者住所



▼利用目的



※ 利用目的は住民用・道路利用者・WEBアンケート回答者を対象とし、「利用したことがない」「未回答」と回答された方以外を対象とする
 ※ 四捨五入により合計があわない場合がある

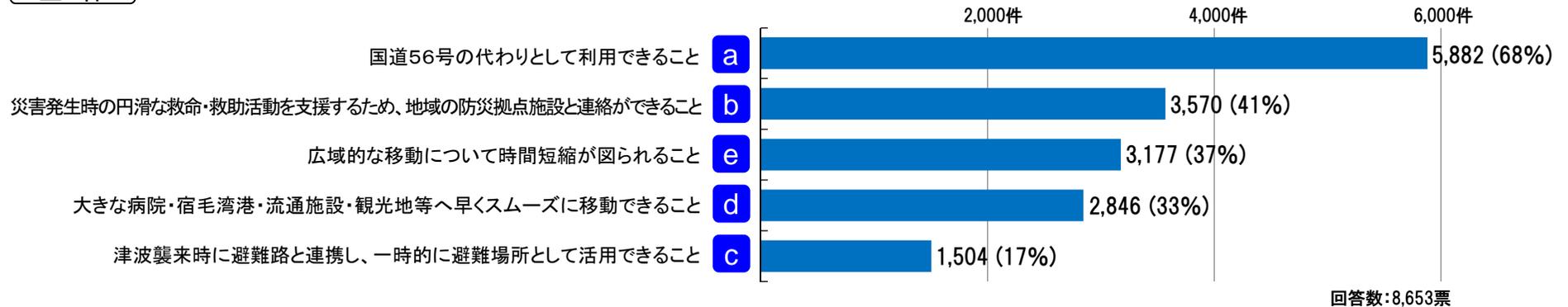
3. 第2回意見聴取の結果(アンケート結果:ルート帯案を考える際に重要と思う項目) 13

(1)望ましいルート帯案を考える際に、重要と思う項目について

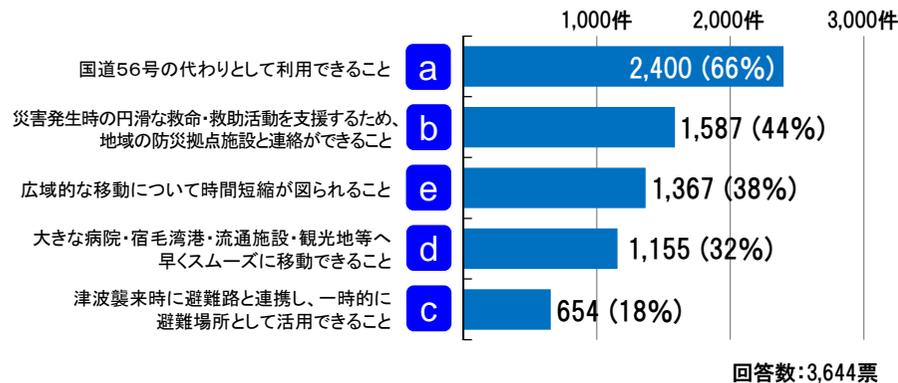
- 重要と思う項目では、「**a** 国道56号の代わりとして利用できること」、「**b** 災害発生時の円滑な救命・救助活動を支援するため、地域の防災拠点施設と連絡ができること」が重要とされている。
- 地域別においても、「**a** 国道56号の代わりとして利用できること」、「**b** 災害発生時の円滑な救命・救助活動を支援するため、地域の防災拠点施設と連絡ができること」が重要とされており、意見に大きな違いは見られなかった。

問1:宿毛～内海間の望ましいルート帯案を考える際に、どれがより重要と思いますか？

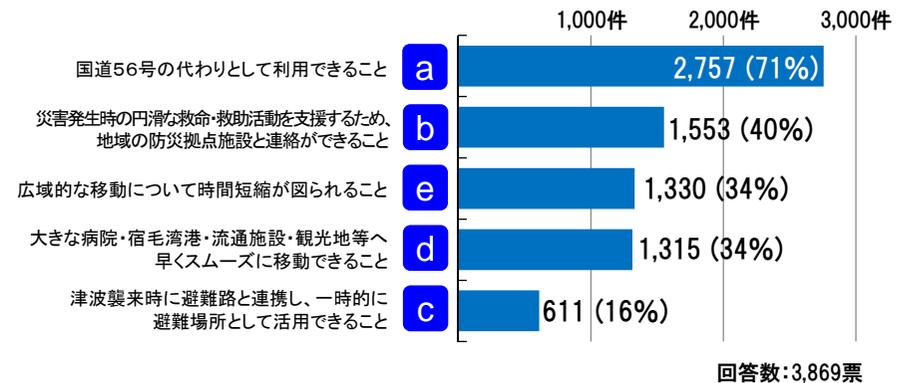
全体



宿毛市



愛南町



3. 第2回意見聴取の結果(アンケート結果:ルート帯案を考える際に配慮すべき事項)14

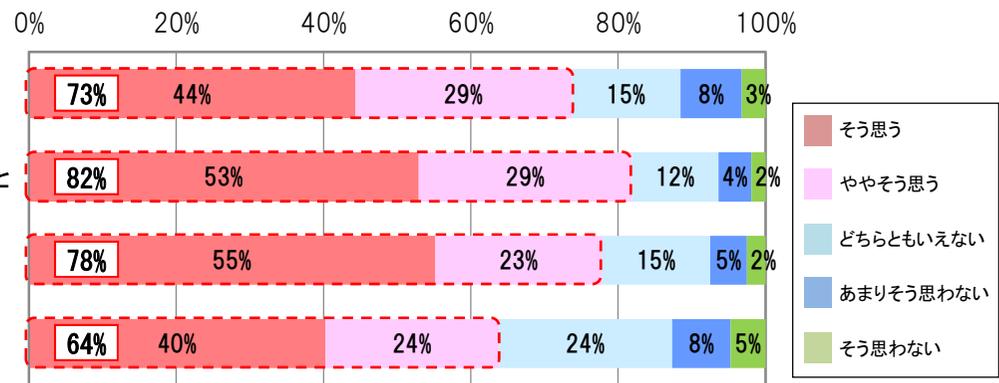
(2)望ましいルート帯案を考える際に、配慮すべき事項について

○すべての項目において、回答者の6割以上の方が配慮すべきと思われる。
 ○宿毛市・愛南町とも「**b** 生活環境等(集落、田畑、大気質、騒音、史跡等)への影響が少ないこと」、「**c** 整備に要する期間が短いこと」について配慮すべきと思われる。

問2:宿毛～内海間の望ましいルート帯を考える際に、配慮すべき事項についてどう思いますか？

全体

- a** 自然環境(動物・植物等)への影響が少ないこと
- b** 生活環境等(集落、田畑、大気質、騒音、史跡等)への影響が少ないこと
- c** 整備に要する期間が短いこと
- d** 整備に要する費用が安いこと

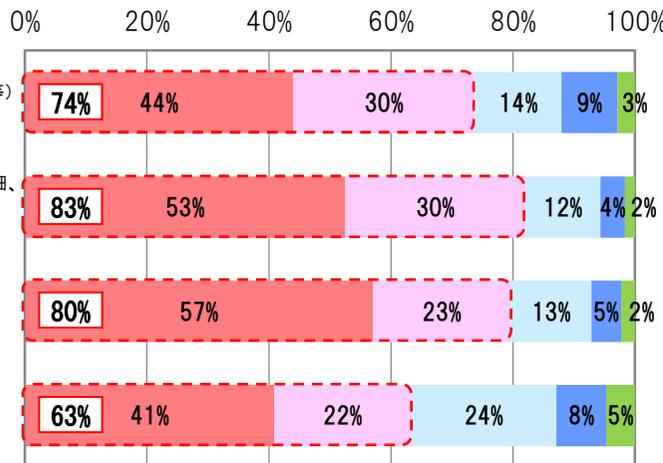


※□書きの数値は、「そう思う」及び「ややそう思う」と回答のあった割合
 ※四捨五入により、合計があわない場合がある

回答数:8,653票

宿毛市

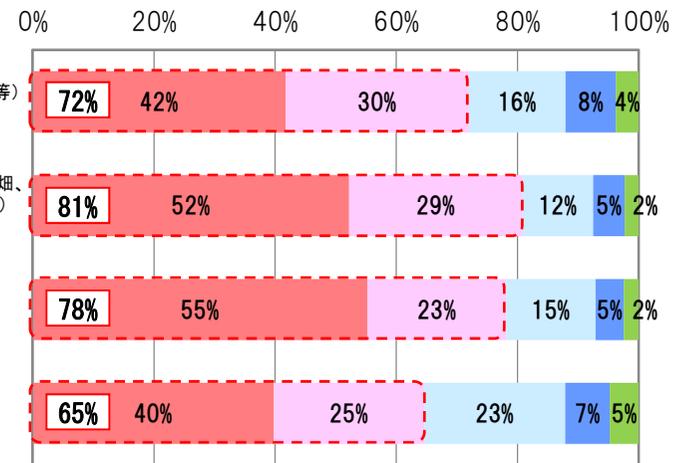
- a** 自然環境(動物・植物等)への影響が少ないこと
- b** 生活環境等(集落、田畑、大気質、騒音、史跡等)への影響が少ないこと
- c** 整備に要する期間が短いこと
- d** 整備に要する費用が安いこと



回答数:3,644票

愛南町

- a** 自然環境(動物・植物等)への影響が少ないこと
- b** 生活環境等(集落、田畑、大気質、騒音、史跡等)への影響が少ないこと
- c** 整備に要する期間が短いこと
- d** 整備に要する費用が安いこと



回答数:3,869票

3. 第2回意見聴取の結果(アンケート結果:ルート帯案を考える際の自由意見) 15

(3)問1、問2の項目以外で重要と思うもの・配慮すべきもの

○「早期の道路整備」、「国道56号の代替路の整備」を求める意見が多く寄せられた。

問1、問2の項目以外で、重要と思うもの・配慮すべきものがあれば、ご自由にお書きください

<主な意見>



項目	自由意見
早期の道路整備の要望	<ul style="list-style-type: none"> ■災害、流通、観光等、全てで四国西南地域は遅れている。できる限り早い完成を望む。(70代 男性) ■地震はいつ来るかわからないので、少しでも早く完成してほしい。(30代 女性) ■一日でも早い整備が大事だと思う。完成が先伸ばしされる不利益を第一に考えるべき。(50代 女性)
国道56号の代替路の整備要望	<ul style="list-style-type: none"> ■利便性よりも、近い将来必ず来るといわれる災害に備えるための道作りをお願いしたい。(60代 女性) ■地震や津波、土砂崩れなどの影響を受けないルートが良いと思います。(40代 男性) ■地震、津波の影響があつては困る。災害時に使用できなければ意味がない。(サービス業)
防災拠点と連絡できる道路の整備要望	<ul style="list-style-type: none"> ■最近では未経験の災害が多く宿毛は避難場所も少ない。災害時の避難ルート確保が必要。(30代 女性) ■移転する小深浦高台に高速がついたなら宿毛市庁舎は市民を守る一大防災拠点となる。(40代 男性) ■発災後のライフラインとして重要。新港につなげて、船舶での物資輸送拠点としてほしい。(40代 男性)
避難場所として活用できる道路の整備要望	<ul style="list-style-type: none"> ■災害が起きて人がいなくなればどんなものも意味がなくなるので命を第一に考えてほしい。(70代 男性) ■道路より海沿いの人々には避難場所として利用できることが重要。(50代 男性) ■救命活動や避難場所に活用できるこの命の道は早急に着手し短期間で開通してほしい。(50代 男性)
病院・宿毛湾港・流通施設・観光地への早くスムーズな移動	<ul style="list-style-type: none"> ■ドクターヘリでも間に合わない緊急患者がいる中、病院への連携が取れる道路が欲しい。(50代 女性) ■宿毛新港の利活用につながるようなルートが望ましい。(サービス業) ■水産物、農産物の流通の利便性や南レク等の観光施設へのアクセシビリティが大切。(60代 男性)
安全性向上要望	<ul style="list-style-type: none"> ■高齢化率が高いため、追越車線や片側2車線などの車線数が重要。(30代 男性) ■対面通行では渋滞が多くなるので追い抜きできる箇所を多くしてほしい。(30代 女性) ■地域的に高齢化率が高いため、安全性の高い使いやすいものにしてほしい。(60代 女性)
広域的な移動時間短縮要望	<ul style="list-style-type: none"> ■東京からもっとも遠い地域。不便すぎる。交通の便の悪さ故、産業の誘致も難しい。(30代 女性) ■県外へのアクセスが重要。観光客が四国に来やすいように。(サービス業)
整備費用の削減要望	<ul style="list-style-type: none"> ■自動車専用道として、できるだけ安く整備できればいいと思います。(60代 男性) ■早くて安い案を望むが、現状の国道を改良するのでは意味がない。(サービス業)
生活環境への配慮要望	<ul style="list-style-type: none"> ■集落の近くを通る場合、十分な防音対策が必要と考える。(70代 男性)
自然環境への配慮要望	<ul style="list-style-type: none"> ■自然環境への影響を精一杯少なくしてほしい。(60代 女性)
景観への配慮要望	<ul style="list-style-type: none"> ■御荘湾を横目に見て行けることが、最も望ましい。(60代 男性)
休憩施設の設置要望	<ul style="list-style-type: none"> ■SAか道の駅を設置して、人が集まることが出来るよう配慮願いたい。(50代 男性)

※既存道路への維持管理、不満 : 国道56号の除草要望や、急カーブが多いなどに関する意見

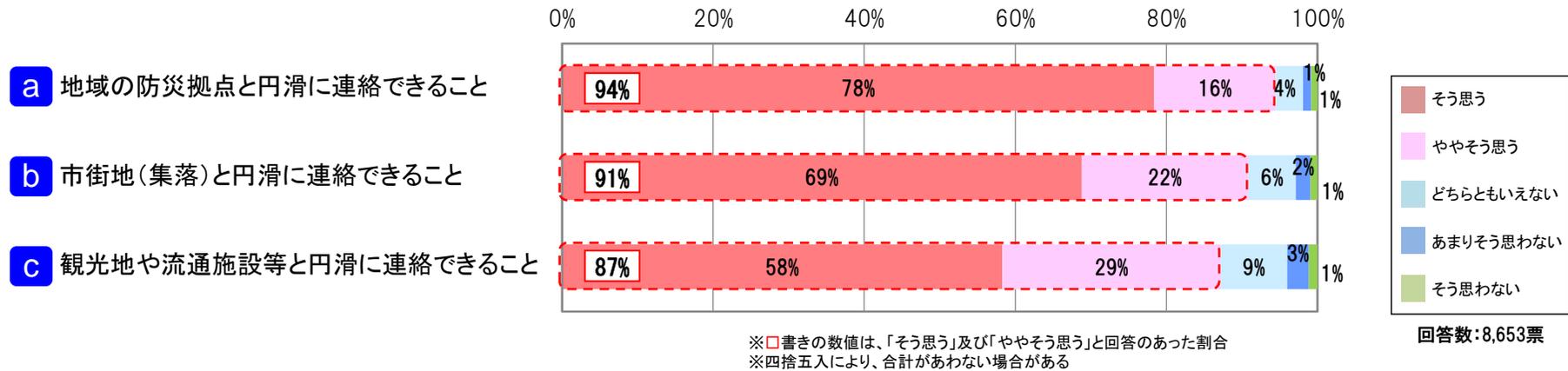
3. 第2回意見聴取の結果(アンケート結果:インターチェンジを造る際に配慮すべき項目)

(4)インターチェンジを造る際に配慮すべき事項について

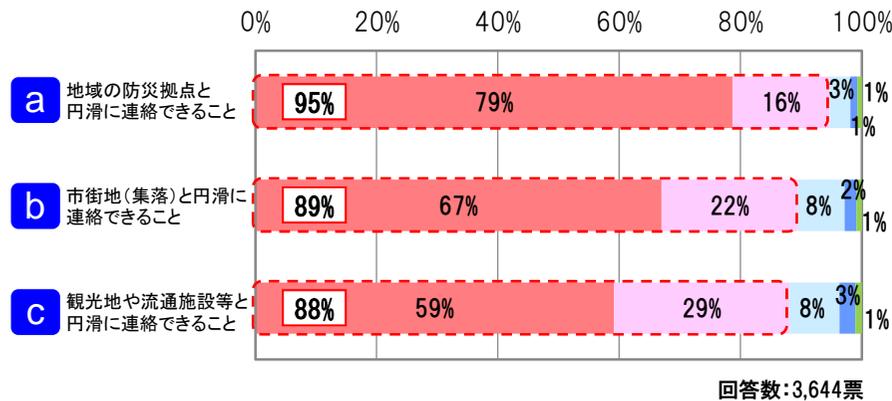
○すべての項目において、回答者の8割以上の方が配慮すべきと思われる。
 ○宿毛市・愛南町とも「**a** 地域の防災拠点と円滑に連絡できること」、「**b** 市街地(集落)と円滑に連絡できること」について配慮すべきと思われる。

問3:宿毛～内海間にインターチェンジを造る際に、配慮すべき事項についてどう思いますか？

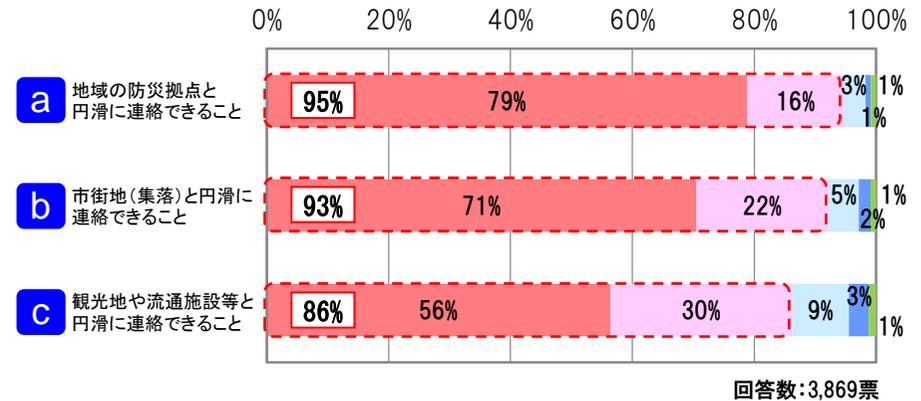
全体



宿毛市



愛南町

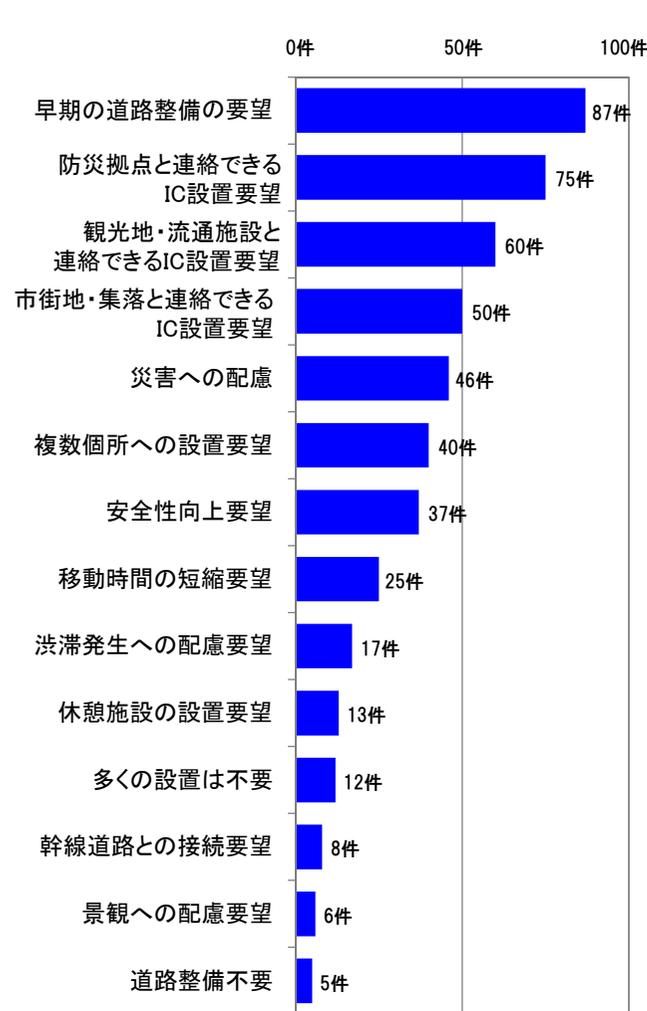


3. 第2回意見聴取の結果(アンケート結果:インターチェンジを造る際の自由意見) 17

(5)問3の項目以外で重要と思うもの・配慮すべきもの

○「早期の道路整備」、「防災拠点と連絡できるIC設置」、「観光地・流通施設と連絡できるIC設置」を求める意見が多く寄せられた。

問3のa～c以外で、重要と思うものがあれば、ご自由にお書きください



<主な意見>

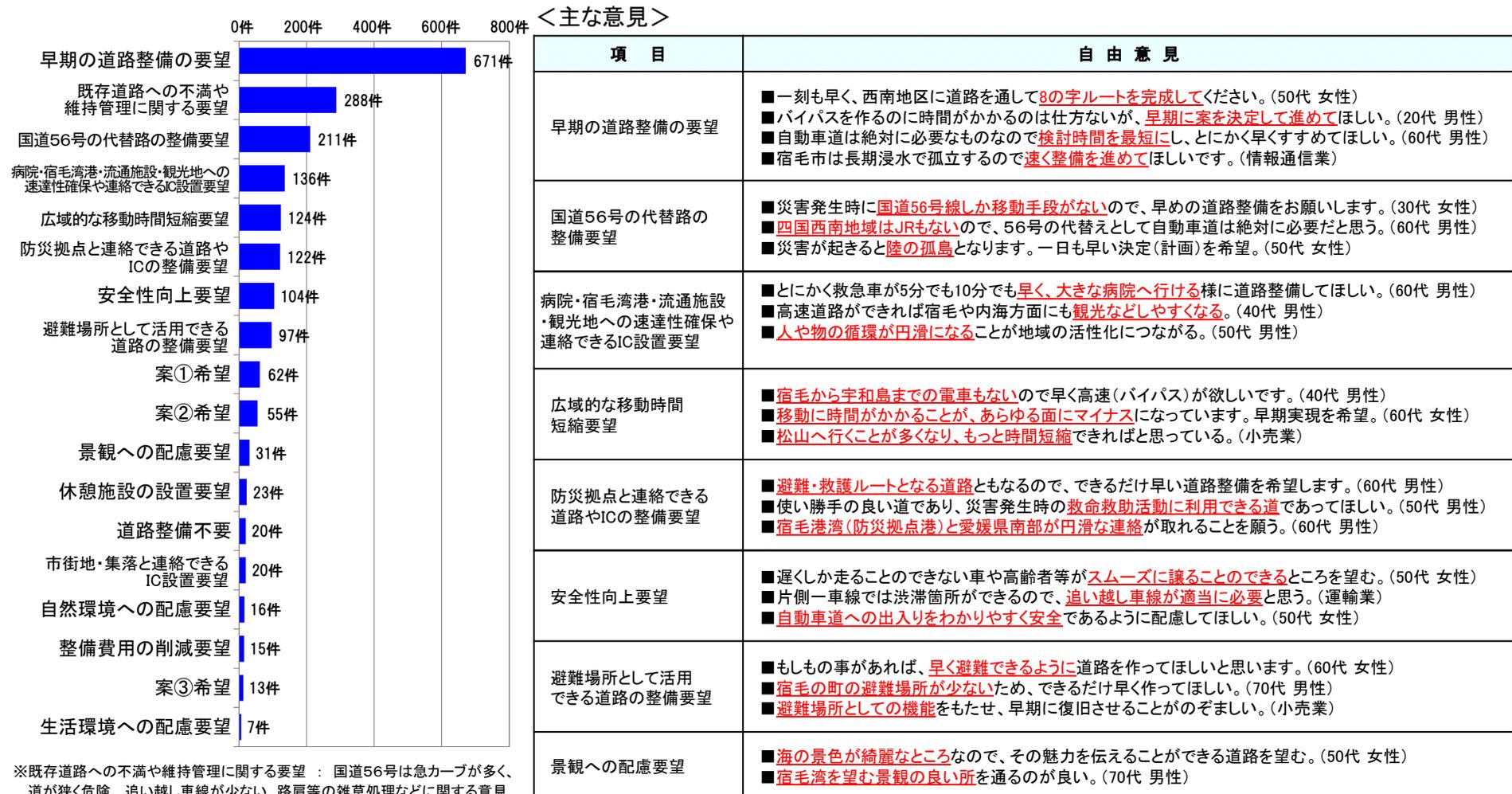
項目	自由意見
早期の道路整備の要望	<ul style="list-style-type: none"> ■産業経済発展・防災・観光等あらゆるメリットが期待される為、早期実現を望みます。(50代 女性) ■災害はいつ起こるかもわからない。できるだけ早い完成が必要だと思う。(70代 男性) ■安全な高台、避難タワーが全くない宿毛市街地にとって、早く安全な道をつくってほしい。(60代 女性)
防災拠点と連絡できるIC設置要望	<ul style="list-style-type: none"> ■宿毛市役所が移転するので災害時のときを考えた設計、場所の選定をしてもらいたい。(20代 女性) ■南海地震を考慮し、できるだけスムーズに震災時の避難や後処理ができること。(60代 女性) ■専用道自体が防災拠点になってほしい。(40代 男性)
観光地・流通施設と連絡できるIC設置要望	<ul style="list-style-type: none"> ■流通、移動の時間短縮となる場所へ。(40代 男性) ■養殖魚や柑橘類など鮮度が命の物産の活性化。(60代 男性) ■インターチェンジ自体が魅力的である事。近くに道の駅や観光地がある事。(50代 女性)
市街地・集落と連絡できるIC設置要望	<ul style="list-style-type: none"> ■地域の拠点となる施設及び中心的な集落との関連性に十分配慮されたい。(70代 男性) ■市街地と連絡を取らないと、通過のみが優先され、流通メリットが期待できない。(60代 男性) ■市街地から徒歩でも避難しやすい所に進入路を造ってください。(40代 女性)
災害への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ■有事の際の活用に長けた利用の併用性の重視。(50代 男性) ■避難できるようにしっかりと作りにしてください。(30代 女性) ■津波の影響がない所が望ましい。(40代 男性)
複数個所への設置要望	<ul style="list-style-type: none"> ■高知、愛媛にまたがる自動車道であり両県の交流を考えたこまめなインターが重要。(70代 女性) ■インターチェンジは1箇所だけだと、防災上不安。複数に設置してほしい。(40代 男性)
安全性向上要望	<ul style="list-style-type: none"> ■インターの入り口での逆走防止を万全にして欲しい。(60代 女性) ■高齢の人が迷わない。逆走できない。事故が起きない。(40代 女性)
移動時間の短縮要望	<ul style="list-style-type: none"> ■愛南町は鉄道もなく8の字ルートも途絶えている。農産物や水産物の流通時間の短縮。(50代 男性) ■市立宇和島病院など手術等ができる大きな病院への移動が早く出来る事。(70代 男性)
渋滞発生への配慮要望	<ul style="list-style-type: none"> ■利便性は大事だが、接続箇所の安全性や渋滞発生を防げる工夫をして欲しい。(40代 男性) ■インターチェンジがつくれた事で56号線が渋滞する事がないような場所の選定。(40代 男性)
休憩施設の設置要望	<ul style="list-style-type: none"> ■インターチェンジのみでなくSAと併せたスマートIC化による地域との交流。(30代 男性) ■SAのような景観の良いインターチェンジ。(40代 女性)
多くの設置は不要	<ul style="list-style-type: none"> ■重要と思われるところに降り口があっても良いが、乗り口は多くは要らない。(40代 男性) ■数は多く造らないでいい。最も少ない数で円滑に連絡できる地区に造って欲しい。(20代 男性)
幹線道路との接続要望	<ul style="list-style-type: none"> ■国道56号線からアクセスしやすい場所が良いと思う。(40代 男性) ■主要幹線道路と連絡できていれば良いのでは。観光地や市街地には一般道で。(50代 男性)

3. 第2回意見聴取の結果(アンケート結果:その他自由意見)

(6)国道56号 宿毛～内海間の道路整備等について、日頃から思うことについて

○「早期の道路整備」、「国道56号の代替路の整備」、「病院・宿毛湾港・流通施設・観光地への速達性確保や連絡できるIC設置」を求める意見が多く寄せられた。

問4: 国道56号 宿毛～内海間の道路整備等について、あなた自身が日頃から思う事など、ご意見やご要望をご自由にお書きください



3. 第2回意見聴取の結果(ヒアリング結果:ルート帯案を考える際に重要と思う項目)

(1)宿毛～内海間の望ましいルート帯案を考える際に、重要と思う項目について

○「**a** 国道56号の代わりとして利用できること」、「**b** 災害発生時の円滑な救命・救助活動を支援するため、地域の防災拠点と連絡ができること」、「**c** 津波襲来時に避難路と連携し、一時的に避難場所として活用できること」、「**d** 大きな病院・宿毛湾港・流通施設・観光地等へ早くスムーズに移動できること」が重要との意見が多く寄せられた。

項目	意見
a 国道56号が災害や事故等で通行止めになった場合に、国道56号の代わりとして利用できること (54団体)	<ul style="list-style-type: none"> ■H30年7月豪雨災害では、国道56号や国道378号が通行止めとなったが、高速道路がすぐに通行可能となったことから、自衛隊などの緊急車両の通行が可能となり、まさに命の道であった。今後想定される南海トラフ地震時にも、高速道路のような信頼性の高い道路が必要であると痛切に感じている。(宇和島市) ■H30年7月豪雨災害を踏まえ、信頼性の高い2本目の道路が必要である。(愛媛県) ■南海トラフ地震発生時には、津波や長期浸水により唯一の幹線道路である国道56号は寸断が懸念され、発災後の道路啓開においても相当の時間が必要と考えられる。(宿毛市)
b 災害発生時の円滑な救命・救助活動を支援するため、地域の防災拠点施設と連絡ができること (56団体)	<ul style="list-style-type: none"> ■防災拠点とのアクセスが重要であり、避難所を兼ねた休憩施設が必要であると考えている。(愛南町) ■南海トラフ地震発生時、国道56号の海岸線は寸断され、緊急消防援助隊等の延着が危惧される。ヘリ等による空路での支援では輸送量に限界があり、災害時、愛南町は長期孤立する恐れあり。(愛南町消防本部) ■南海トラフ地震をはじめとする大規模災害発生時における幡多地域への円滑な支援部隊の進出や緊急物資の輸送、防災拠点港となる宿毛湾港や総合防災拠点との連携が可能であること。(高知県) ■宿毛新港や市役所庁舎などの防災拠点との連携を図ることが重要。(幡多西部消防組合消防本部 宿毛消防署)
c 津波襲来時に避難路と連携し、一時的に避難場所として活用できること (53団体)	<ul style="list-style-type: none"> ■市街地との連絡性を優先することで、発災直後の一時的な避難場所として副次的に活用可能になる。(宿毛市) ■津波が発生した場合に沿岸地域からの避難場所として、信頼性の高い高速道路が必要。(JAえひめ南宇和城辺支所) ■沿線を車移動する際、津波が襲来したらどうしようかと不安になる。高い所に道があると安心できる。(高知新聞企業観光局)
d 大きな病院・宿毛湾港・流通施設・観光地等へ早くスムーズに移動できること (47団体)	<ul style="list-style-type: none"> ■町外の第三次救急医療機関や第二次救急医療機関にすぐ行けるような道路が絶対に必要である。(愛南町) ■宿毛湾工業流通団地は西南地域の様々な資源を最大限に活かすための臨海工業団地となっており、物流を考えるうえで宿毛湾港への円滑なアクセスが欠かせない。(宿毛商工会議所) ■養殖魚をはじめとする幡多地域の特産物や加工品の消費地への輸送時間が短縮されること。(高知県) ■西海を中心に観光資源が豊富にあり、開通すれば交流人口が増えることは間違いない。(愛南町) ■南レクなどの観光施設を既存ストックとして、将来高速道路が繋がれば、観光業全体が復活することが期待できる。(愛媛県) ■宇和島地区(愛南町含む)の観光入込客数は、他地区と比較して少ない。これは、移動に時間がかかると観光客のルート(観光候補地)から外れることが理由と考えられる。(愛媛県観光物産協会)
e 広域的な移動について時間短縮が図られること (22団体)	<ul style="list-style-type: none"> ■宿毛湾港周辺での水産加工施設の整備も相次いでおり、高速道路の整備により流通の速達性・定時性が確保され、産地加工による品質の良い加工品の販路拡大が期待される。(宿毛市) ■速達性向上により、ドライバーの負担軽減、地域へのアクセス性向上などの効果があると思う。(愛媛県トラック協会)
その他 (30団体)	<ul style="list-style-type: none"> ■8の字が繋がっていれば、高知・松山の両方から運ぶことができ、さらなる代替路が確保できる。(高知県漁業協同組合清水統括支所) ■案②は通り抜けるには早いですが、市街地からの距離が近い方が乗り降りを考えると早い。山の上を通過して、地域産業の核が水産業なのにありえない。(すくも湾漁業協同組合)

3. 第2回意見聴取の結果(ヒアリング結果:ルート帯案を考える際に配慮すべき項目)

(2)宿毛～内海間の望ましいルート帯案を考える際に、配慮すべき項目について

○「**c** 整備に要する期間が短いこと」に配慮すべきとの意見が多く寄せられた。

項目	意見
a 自然環境(動物・植物等)への影響が少ないこと (5団体)	<ul style="list-style-type: none"> ■高速道路ができることで、<u>動物の行き来ができるよう、人工の獣道を設置するような配慮も必要</u>だと思われる。(宇和島商工会議所) ■<u>景色は重要な観光資源</u>。(サンリバー四万十) ■自然環境は意識をどの様に持つかで今以上の環境にもなると思います。作る上では<u>自然環境の影響は極力影響の無い方が望ましい</u>。(JAえひめ南一本松支所)
b 生活環境等(集落、田畑、大気質、騒音、史跡等)への影響が少ないこと (2団体)	<ul style="list-style-type: none"> ■宇和海沿岸地域では、伝統的な柑橘農業システムが機能しており、<u>日本農業遺産、世界農業遺産の認定</u>に向け申請中である。当農業は、<u>里山とのつながり</u>などを取り入れて豊かな<u>生物多様性</u>を育てており、このバランスを崩す事がないよう配慮する必要がある。(えひめ地域政策研究センター) ■整備の期間や費用は大きな問題ではない。<u>1度作ったら直せない自然環境や生活環境に配慮すべき</u>。(高知新聞 企業観光局)
c 整備に要する期間が短いこと (14団体)	<ul style="list-style-type: none"> ■南海トラフ大地震発生後は、<u>復旧活動</u>も困難になると予測されることから、<u>早期完成</u>が望ましい。(愛媛県) ■愛南町は人口減少が進んでいるため、<u>道路整備が遅くなるのであれば作る意味がない</u>のではないかと。(愛媛県医師会) ■<u>スピードを持って開通して欲しい</u>。走行時間が少し長いくらいは気にならない。現状に比べるととても短くなる。(宿毛市観光協会) ■内海以南は代替路がないため高速が重要であり、<u>早く道を作ってほしい</u>。(愛南町一本松女性団体連絡協議会) ■発生確率が年々高まる南海トラフ地震や近年、集中化、激甚化する豪雨災害への幡多地域の防災力を早期に高めるため、<u>整備期間の短縮</u>が図られること。(高知県) ■現道改良は論外だが、<u>早く整備して欲しい</u>。(中村商工会議所) ■他地域から病院へ通勤するドクターもいるので、災害で道路が通行止めになるとドクターが病院に行けない。防災・人命救助の面から<u>道路を早く作って欲しい</u>。(高知県医師会)
d 整備に要する費用が安いこと (2団体)	<ul style="list-style-type: none"> ■ICは多いほうがよい。使いやすく、また<u>お金がかからないほうがよい</u>。(JAえひめ南一本松支所) ■第一は、<u>工費が安く、工期が短いこと</u>。(中村商工会議所)
その他 (8団体)	<ul style="list-style-type: none"> ■厳しい地形や脆弱な地質の区間を極力避けるとともに、津波浸水の影響を回避することにより、将来にわたって安心・安全の確保が図られること。(高知県) ■地域の人口減少も課題。<u>人が残るようにすべき</u>。(南宇和郡医師会) ■トンネルが多いのは眠くなるので、<u>トンネルが少なく景観性がよい道</u>がよい。(JAえひめ南一本松支所) ■高齢者が多い地域なので、車での移動が便利になると<u>土佐くろしお鉄道への影響</u>が心配。(高知県観光コンベンション協会)

3. 第2回意見聴取の結果(ヒアリング結果:インターチェンジを造る際に配慮すべき項目)

(3) 宿毛～内海間にインターチェンジを造る際に、配慮すべき項目について

○「**c** 観光地や流通施設等と円滑に連絡できること」に配慮すべきとの意見が多く寄せられた。

項目	意見
<p>a 地域の防災拠点と円滑に連絡できること</p> <p>(24団体)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 防災拠点や第二次救急医療機関(愛媛県立南宇和病院)が近接する役場付近と円滑に連絡したい。(愛南町) ■ 津波の被害を受けると予想される地域は、避けるべきだと考える。災害の影響が長期化した場合に、高速道路とインターチェンジが残っていれば、少しでも早期の復興が可能になると思われる。(JAえひめ南宇和城辺支所) ■ 大規模災害発生時には、防災拠点及び町の基幹病院と円滑に連絡できる場所にインターチェンジを造ることが早期災害活動終息に向け重要であると考え。(愛南町消防本部) ■ 災害時における防災拠点港(宿毛湾港)、高台に移転する宿毛市役所庁舎との連絡の確保。(高知県) ■ 宿毛湾港近傍にインターチェンジを設置することで、一次防災拠点港に指定される宿毛湾が地域の防災拠点である宿毛市役所(小深浦高台)、総合防災拠点(幡多ブロック広域拠点)である宿毛市総合運動公園と連絡し、大規模地震に備えた緊急輸送体制が可能となる。(宿毛市、宿毛商工会議所) ■ 支援物資輸送のボランティアの方などがスムーズに移動できるような位置が良い。(宿毛市連合婦人会) ■ 重視すべきは人命救助であり、インターチェンジと防災拠点との連絡が最重要であると考え。(宿毛青年会議所)
<p>b 市街地(集落)と円滑に連絡できること</p> <p>(22団体)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市街地にある医療機関(基幹病院)とのアクセス性が重要である。(南宇和郡医師会) ■ 御荘や城辺へのアクセス性を重視した位置にインターチェンジが出来れば、市街地との連絡性が向上する。(フレッシュ本松) ■ 宿毛市新庁舎との連携の面から考えて、ICは市街地が近い方が望ましい。(宿毛市観光協会) ■ 沿線に住んでいる人の利便性を考慮して集落の近くにインターチェンジがあるほうが良いのでは。(道の駅「めじかの里土佐清水」) ■ 国道321号との連絡と合わせて、できるだけ宿毛の市街地よりに設置すれば便利になるものと思われる。(道の駅「大月」)
<p>c 観光地や流通施設等と円滑に連絡できること</p> <p>(31団体)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 企業誘致に行っても、今は高速道路が無いから愛南町に建てるメリットが無いと言われる。(愛南町) ■ 流通施設は今は現地に無くても、インターチェンジができてから企業立地することも期待できる。(宇和島商工会議所) ■ 平時における宿毛湾港工業流通団地や宿毛湾港への安全で効率的な人流・物流の確保。(高知県) ■ 農産物の産地に近い所にICがあると輸送距離も減り、輸送コスト縮減や輸送時間短縮に伴う鮮度確保に繋がる。(JAえひめ南) ■ 活魚出荷や産地加工による出荷を考慮しても、宿毛湾港近傍にICが位置することが有利である。(宿毛市) ■ 集客施設の多い街が素通りされないように、ICは街を挟み込むようにつくるべき。(道の駅 みしょうMIC) ■ 小深浦地区にインターチェンジが出来れば、国道321号線にも近く愛媛県側とのアクセスがよくなるため大月町・土佐清水市への観光客の増加や流通の向上が期待される。(宿毛商工会議所)
<p>その他</p> <p>(23団体)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大型車の乗り入れがし易いことが重要であるため、大きな道でのアクセスをお願いしたい。スマートICではダメ。(愛媛県トラック協会) ■ 物流面を考えると、宿毛新港寄りにインターチェンジが必要。宿毛新港付近は長期浸水しない。(幡多西部消防組合消防本部 宿毛消防署)

3. 第2回意見聴取の結果(意見交換会)

○宿毛市・愛南町の高校生や地域の産業・観光関係者を対象とした意見交換会を開催。72名の方に参加いただいた。
 ○様々な地域の課題を解決するために、政策目標を達成できる高規格道路の整備が望まれていた。

(1) 宿毛～内海間の望ましいルート帯を考える際に重要と思う事項について

項目	意見
a 国道56号の代わりとして利用できること	<ul style="list-style-type: none"> ■災害発生時に陸の孤島にならないよう、緊急車両や物資輸送のための迂回路が必要。(産業・観光関係者) ■地震などが起きた時に災害に強く、防災機能を果たすことが出来ること。(宿毛工業高校)
b 災害発生時の円滑な救命・救助活動を支援するため、地域の防災拠点施設と連絡ができること	<ul style="list-style-type: none"> ■災害時の迅速な救援活動ができる場所の近くで、津波浸水しないところ。(産業・観光関係者) ■災害の危険性が高まってきており、災害時に地域が孤立することを未然に防止することが出来るから。(南宇和高校)
c 津波襲来時に避難路と連携し、一時的に避難場所として活用できること	<ul style="list-style-type: none"> ■地震等の発生時に、避難所までの移動が速やかになるよう、避難路と連携がしやすいルートがよい。(宿毛工業高校) ■地震・津波は必ず発生する地域であるため、高速道路を避難場所に活用できるといい。(産業・観光関係者)
d 大きな病院・宿毛湾港・流通施設・観光地等へ早くスムーズに移動できること	<ul style="list-style-type: none"> ■日常的に一番必要なのは、病院間の連絡や救急搬送時の所要時間を短縮することである。(南宇和高校) ■移動時間短縮により、滞在時間が伸び、そこからビジネスチャンスが広がる。(産業・観光関係者)
e 広域的な移動について時間短縮が図られること	<ul style="list-style-type: none"> ■日常の行動範囲が広がったり、生活する上での選択肢が増えたりすることで生活が豊かになる。(南宇和高校) ■南予・幡多地域は一次産業が重要であり、農林水産物を大消費地に早く届けられることが重要。(産業・観光関係者)

(2) 宿毛～内海間にインターチェンジを造る際に配慮すべき事項について

項目	意見
a 地域の防災拠点と円滑に連絡できること	<ul style="list-style-type: none"> ■宿毛新港は県外や海外との物流の活性化が期待できる。災害時でも利用できる可能性がある。(産業・観光関係者) ■災害時の避難先として多くの人が使えるようにするため、ICは多くの場所に必要。(宿毛工業高校)
b 市街地(集落)と円滑に連絡できること	<ul style="list-style-type: none"> ■主要な市街地に作るべき。災害面でも・産業面でも山中では意味が無い。(産業・観光関係者) ■市街地にICをつくり、各地との時間短縮が図れることに期待する。(宿毛工業高校)
c 観光地や流通施設等と円滑に連絡できること	<ul style="list-style-type: none"> ■水産物を売り出したいので、港にアクセスできるICがほしい。(産業・観光関係者) ■主要観光施設や物流施設が集まり、町民が利用しやすい町の中心部にICが必要である。(南宇和高校)

※意見交換会にて聴取した自由意見を分類

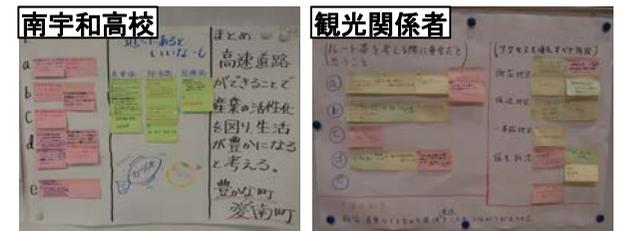
▼討議状況(班ごとに分かれて発案・意見交換)



▼討議結果発表(各班の討議結果を発表)



▼意見交換会討議資料



4. 対応方針(素案)の検討

4. 対応方針(素案)の検討 【政策目標と複数のルート帯案】

- 当該地域の道路の現状・課題を踏まえ、第1回意見聴取で確認のとれた「政策目標」を達成するための役割を有する道路整備の対応方針(案)(複数のルート帯案)を設定。
- 対応方針(案)(ルート帯案)検討にあたっては、南海トラフ地震への対応、速達性・走行性、自然環境・生活環境の保全と調和、経済性等への配慮等を考慮。

【政策目標】

①南海トラフ地震等に備えた信頼性の高いネットワークの確保 ・代替路の確保 ・防災拠点施設や避難路との連携	②物流・防災拠点「宿毛湾港」への円滑なアクセス確保により地域力強化を支援	③速達性・走行性の向上により産業振興を支援	④地域間の交流促進により広域的な観光振興を支援	⑤救急医療機関への速達性の向上や安静搬送、走行性向上による交通事故の減少
--	--------------------------------------	-----------------------	-------------------------	--------------------------------------

【ルート帯案検討にあたっての評価項目】

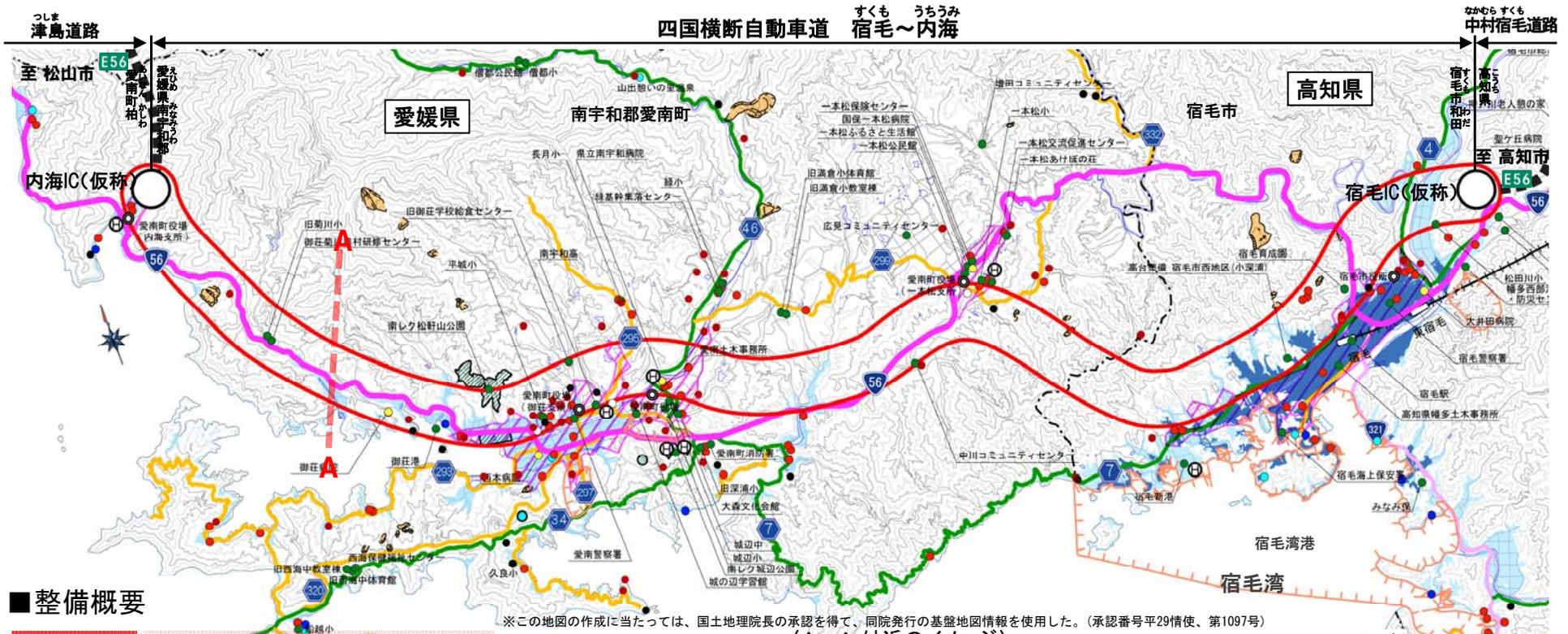
○ルート帯案の検討にあたっては、南海トラフ地震等への対応、宿毛湾港への円滑なアクセス確保、産業振興・観光振興・医療サービス支援・交通事故の減少のための速達性・走行性に加え、自然・生活環境等の保全と調和、経済性等に配慮し検討する。

《政策目標を達成するために考慮する評価項目》		《道路整備に際し配慮する評価項目》 ※全事業対象項目	
南海トラフ地震等への対応	速達性・走行性	自然環境・生活環境等の保全と調和	経済性等への配慮
<ul style="list-style-type: none"> ・国道56号の代替機能 ・地域の防災拠点への円滑な連絡の確保 ・避難路と連携した一時的に避難場所としての活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿毛湾港との円滑な連絡の確保 ・市場までの輸送時間短縮、商品の品質確保(急カーブや信号交差点の影響) ・観光地への立寄り箇所や滞在時間の増加(広域的な時間短縮等) ・医療施設までの搬送時間の短縮や患者への負担軽減、交通事故の減少(急カーブや信号交差点の影響) 	<ul style="list-style-type: none"> ・動物への影響 ・植物への影響 ・集落などへの影響 ・大気質及び騒音等の影響 ・重要な史跡等への影響 	<ul style="list-style-type: none"> ・建設に要する期間 ・建設に要する費用

案① 市街地(集落)との連絡性を優先するバイパス案 市街地(集落)の極力近くを通るルートで自動車専用道路を整備する案 (延長 29km 速度 80km/h 2車線)	案② 区間延長を極力短くしたバイパス案 区間延長を極力短くしたルートで自動車専用道路を整備する案 (延長 27km 速度 80km/h 2車線)	案③ 現道改良案 現状の国道56号の急カーブ・急勾配・道路幅等を改良する案 (延長 34km 速度 60km/h 2車線)
---	---	--

4. 対応方針(素案)の検討 【案①の概要】

○案① 市街地(集落)との連絡性を優先するバイパス案



■整備概要

整備概要	延長 約 29 km
	速度 80 km/h
	2車線
	(自動車専用道路)

コスト	約 1250 ~ 1300 億円
-----	------------------

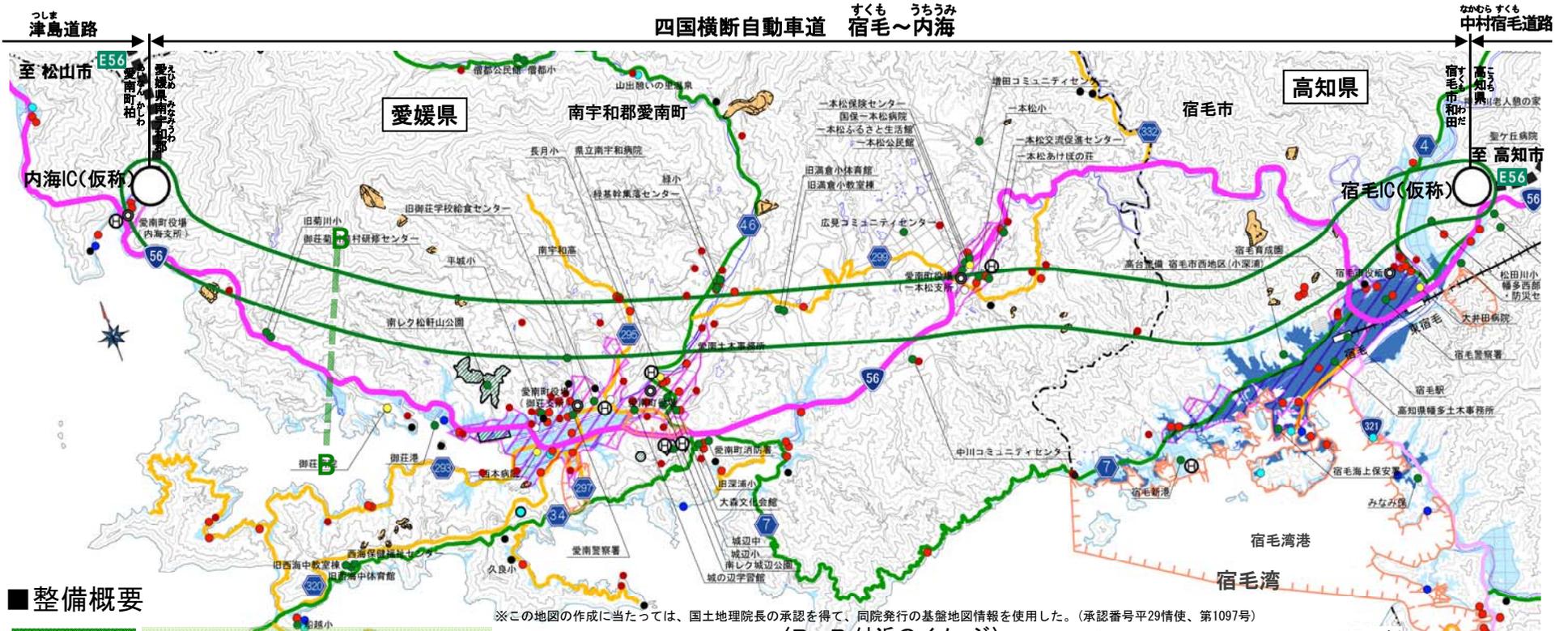
■ルート帯の概要

内容	・市街地(集落)の極力近くを通るルートで、コスト削減の観点から可能な範囲で土工(切土・盛土)を採用し、新たな自動車専用道路を整備する。
----	---



4. 対応方針(素案)の検討 【案②の概要】

○案② 区間延長を極力短くしたバイパス案



■整備概要

整備概要

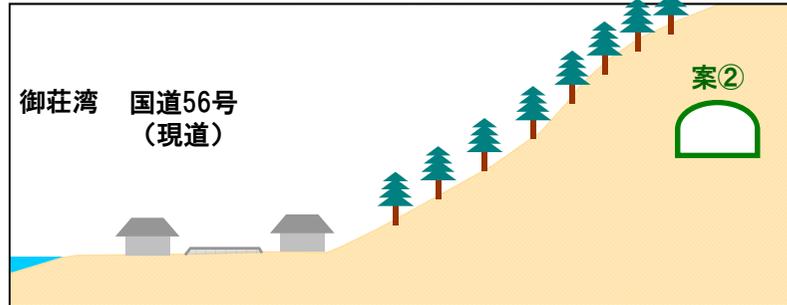
延長 約 27 km
 速度 80 km/h
 2車線
 (自動車専用道路)

コスト 約 1450 ~ 1500 億円

■ルート帯の概要

内容 ・区間延長を極力短くしたルートで、トンネル構造等を採用し、新たな自動車専用道路を整備する。

※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した。(承認番号平29情使、第1097号)
 〈B-B 付近のイメージ〉



凡例

■■■■	事業中区間	■■■■	鳥獣保護区
—	一般国道(直轄国道)	●	名勝・天然記念物
—	一般国道(補助国道)	●	史跡等
—	主要地方道	■	足摺宇和海国立公園
—	一般県道	●	公共施設
—	土佐くろしお鉄道	●	病院
—	県境	●	道の駅や主要な観光施設
◎	市役所・町役場(支所)	⊕	災害対策用ヘリポート
■	地すべり危険箇所	●	防災拠点施設
■	市街地(集落)	■	津波浸水予測域
■	公園	■	長期浸水想定範囲
○	集荷場(農業協同組合)	●	集荷場(漁業協同組合)

4. 対応方針(素案)の検討【案③の概要】

○案③ 現道改良案



■整備概要

整備概要

延長 約 34 km
 速度 60 km/h
 2車線
 (一般道路)

コスト

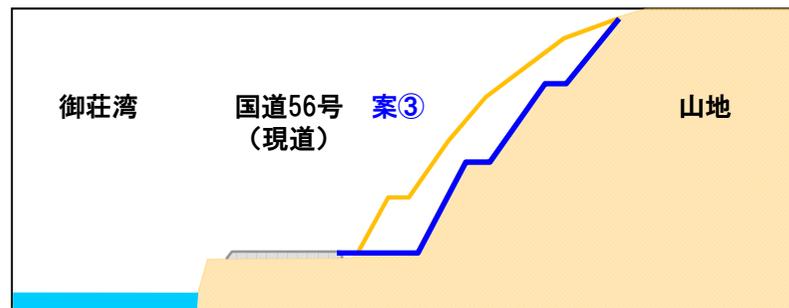
約 100 ~ 150 億円

■ルート帯の概要

内容

・現状の国道56号の急カーブ・道路幅等を改良する。

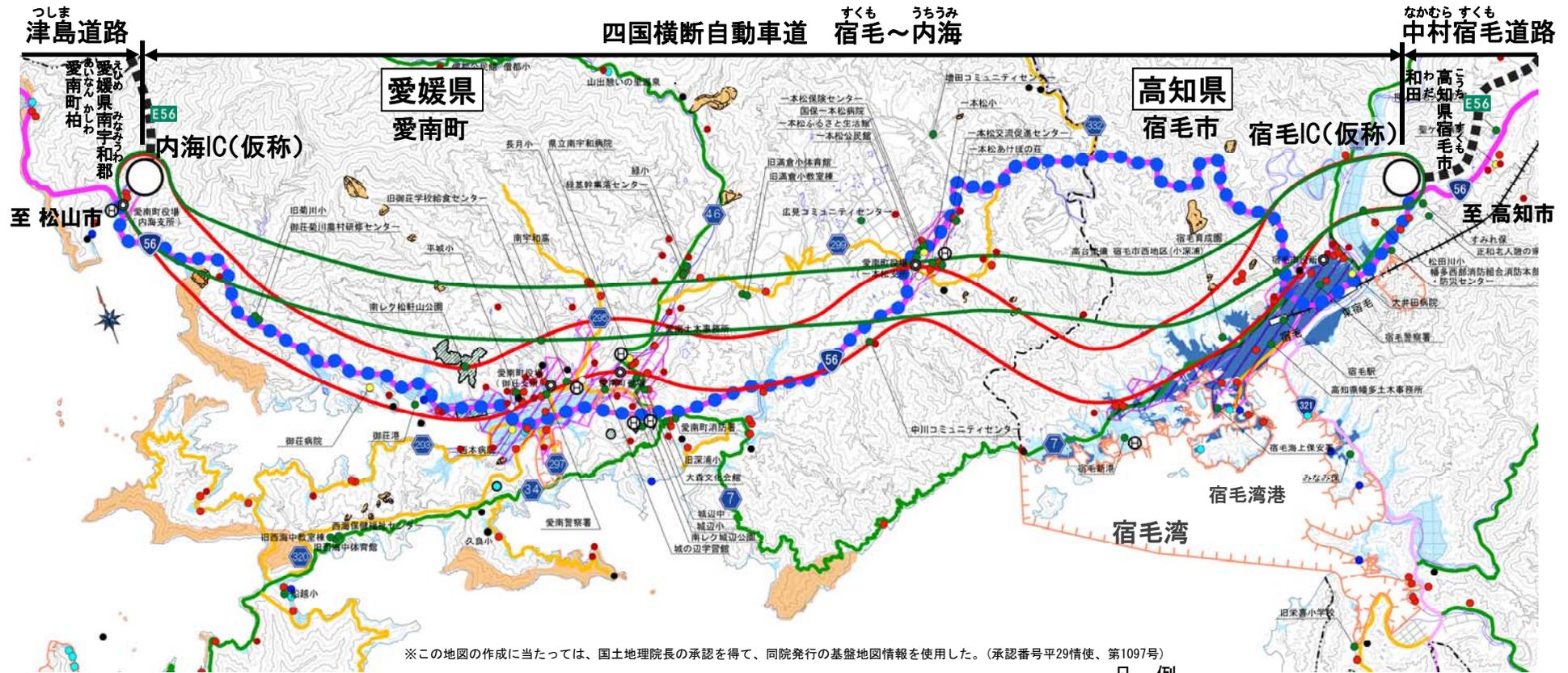
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基礎地図情報を使用した。(承認番号平29情使、第1097号)
 (C-C付近のイメージ)



凡例

■■■■	事業中区間	■■■■	鳥獣保護区
—	一般国道(直轄国道)	●	名勝・天然記念物
—	一般国道(補助国道)	●	史跡等
—	主要地方道	■	足摺宇和海国立公園
—	一般県道	●	公共施設
—	土佐くろしお鉄道	●	病院
—	県境	●	道の駅や主要な観光施設
◎	市役所・町役場(支所)	⊕	災害対策用ヘリポート
■	地すべり危険箇所	●	防災拠点施設
■	市街地(集落)	■	津波浸水予測域
■	公園	■	長期浸水想定範囲
○	集荷場(農業協同組合)	●	集荷場(漁業協同組合)

4. 対応方針(素案)の検討【ルート帯の概要及び比較】



※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した。(承認番号平29情使、第1097号)

- 案①** 市街地(集落)との連絡性を優先するバイパス案
- 案②** 区間延長を極力短くしたバイパス案
- 案③** 現道改良案

凡例					
■■■■	事業中区間		地すべり危険箇所		病院
	一般国道(直轄国道)		市街地(集落)		道の駅や主要な観光施設
	一般国道(補助国道)		公園		災害対策用ヘリポート
	主要地方道		鳥獣保護区		防災拠点施設
	一般県道		名勝・天然記念物		津波浸水予測域
	土佐くろしお鉄道		史跡等		長期浸水想定範囲
	県境		足摺宇和海国立公園		集荷場(農業協同組合)
	市役所・町役場(支所)		公共施設		集荷場(漁業協同組合)

災害対策用ヘリポート: 愛媛県・高知県の地域防災計画・災害時医療救護計画で指定されている災害対策用ヘリポート
 防災拠点施設: 愛媛県・高知県の防災拠点および愛南町・宿毛市の地域防災計画で指定されている二次避難施設
 津波浸水予測域: H24.12.10「高知県版第2弾」南海トラフの巨大地震による震度分布・津波浸水予測について」および
 H25.6.10「愛媛県地震被害想定調査(第一次報告)について」公表資料を基に作成
 鳥獣保護区: 平成24年度 高知県鳥獣保護区等位置図(高知県)、国土政策局GISデータ
 名勝・史跡・天然記念物: 愛南町、宿毛市教育委員会資料
 公共施設: 公立学校(小・中・高・養護)、警察署、消防署、図書館、体育館、国・県・市町の事務所

4. 対応方針(素案)の検討【ルート帯の概要及び比較】

○案①及び案②は、案③に比べ、全ての政策目標の達成が見込めるほか、地域への意見聴取結果で、重要との意見が多く寄せられた、「国道56号の代わりとして利用できること」という点で優れている。
 ○案①は、案②に比べ、地域への意見聴取結果で、重要との意見が多く寄せられた、「災害発生時に、円滑な救命・救助活動を支援するため、地域の防災拠点施設と連絡ができること」という点で優れている。

対策案の考え方		案① 市街地(集落)との連絡性を優先するバイパス案	案② 区間延長を極力短くしたバイパス案	案③ 現道改良案 (現状の国道56号の急カーブ・道路幅等を改良する案)	
評価項目		延長 約29km 80km/hで走行できる自動車専用道路 (2車線)	延長 約27km 80km/hで走行できる自動車専用道路 (2車線)	延長 約34km 60km/hで走行できる一般道路 (2車線)	
政策目標	①南海トラフ地震等に備えた信頼性の高いネットワークの確保	国道56号の代替機能	国道56号の代わりとして利用できる	国道56号の代わりとして利用できる	現状の国道56号を改良するため、代わりとはならない
	・代替路の確保 ・防災拠点施設や避難路との連携	地域の防災拠点への円滑な連絡の確保	円滑な連絡が確保できる(案②より連絡距離は短い)	連絡が確保できる	津波浸水影響を受けるため、連絡が確保できない
		避難路と連携した一時的な避難場所としての活用	避難場所として活用できる	避難場所として一部活用できる	津波浸水影響を受けるため、避難場所として活用できない
	②宿毛湾港への円滑なアクセス確保により地域力強化を支援	宿毛湾港との円滑な連絡の確保	宿毛湾港への円滑な連絡が確保できる(案②より近い)	宿毛湾港への円滑な連絡が確保できる	宿毛湾港への円滑な連絡が確保できない
	③速達性・走行性の向上により産業振興を支援	市場までの輸送時間短縮、商品の品質確保(急カーブや信号交差点の影響)	輸送時間の短縮や商品の品質確保が見込まれる(案②より集荷場からのアクセス性は優れる)	輸送時間の短縮や商品の品質確保が見込まれる	輸送時間の短縮や商品の品質確保は、さほど見込めない
④地域間の交流促進により広域的な観光振興を支援	観光地への立寄り箇所や滞在時間の増加(広域的な時間短縮等)	時間短縮により、立寄り箇所や滞在時間の増加が見込まれる	時間短縮により、立寄り箇所や滞在時間の増加が見込まれる	時間短縮は小さく、立寄り箇所や滞在時間の増加は、さほど見込めない	
⑤緊急医療機関への速達性の向上や安静搬送の実現、走行性向上による交通事故の減少	医療施設までの搬送時間の短縮や患者への負担軽減、交通事故の減少(急カーブや信号交差点の影響)	搬送時間の短縮や患者への負担軽減、交通事故の減少が見込まれる(案②より集落までのアクセス性は優れる)	搬送時間の短縮や患者への負担軽減、交通事故の減少が見込まれる	搬送時間の短縮患者への負担軽減、交通事故の減少は、さほど見込めない	
配慮すべき事項	自然環境	動物への影響	影響の可能性はあるが小さい	影響の可能性はあるが小さい	影響の可能性はあるが小さい
		植物への影響	影響の可能性はある	影響の可能性はある	影響の可能性はあるが小さい
	生活環境	集落などへの影響	小さい	小さい(案①より小さい)	大きい
		大気質及び騒音等の影響	影響の可能性はあるが小さい	影響の可能性はあるが小さい(案①より小さい)	影響の可能性はある
	事業期間	建設に要する期間	長い(案②より短い)	長い	短い
経済性	建設に要する費用	約1250~1300億円	約1450~1500億円	約100~150億円	

*整備目標は、今後の詳細なルート・構造等の検討により変更となる場合があります。

※自然環境及び生活環境への配慮 ⇒ 今後の詳細なルート・構造等の検討段階で詳細な調査を実施し、影響の回避及び低減を図ります。また、整備にあたっては、自然環境及び生活環境に配慮した対策工を実施します。

○地域住民・企業等へのアンケート及び団体等へのヒアリングの結果

【ルート帯案について】

- ・アンケートの重要事項では、「国道56号の代わりとして利用できること」(68%)、「災害発生時の円滑な救命・救助活動を支援するため、地域の防災拠点施設と連絡ができること」(41%)が重要であると思われる。
- ・アンケートの配慮すべき事項では、「生活環境への影響が少ないこと」(82%)、「整備に要する期間が短いこと」(78%)に配慮すべきと思われる。
- ・また、「早期の道路整備」(134件)、「国道56号の代替路の整備」(112件)が重要との意見も多く寄せられた。
- ・ヒアリングでは、「災害発生時の円滑な救命・救助活動を支援するため、地域の防災拠点施設と連絡ができること」(56団体)、「国道56号の代わりとして利用できること」(54団体)、「津波襲来時に避難路と連携し、一時的に避難場所として活用できること」(53団体)、「大きな病院・宿毛湾港・流通施設・観光地等へ早くスムーズに移動できること」(47団体)が重要との意見が多く寄せられた。
- ・また、「整備に要する期間が短いこと」(14団体)に配慮すべきとの意見が多く寄せられた。

【インターチェンジ位置について】

- ・アンケートでは、「地域の防災拠点と円滑に連絡できること」(94%)、「市街地(集落)と円滑に連絡できること」(91%)に配慮すべきと思われる。
- ・また、「早期の道路整備」(87件)、「防災拠点と連絡できるIC設置」(75件)、「観光地・流通施設と連絡できるIC設置」(60件)を求める意見も多く寄せられた。
- ・ヒアリングでは、「観光地や流通施設等と円滑に連絡できること」(31団体)に配慮すべきとの意見が多く寄せられた。

【その他】

- ・意見聴取全般において、「早期の道路整備」(671件)を求める意見が非常に多く寄せられた。
- ・また、「国道56号の代替路の整備」(211件)、「病院・宿毛湾港・流通施設・観光地への速達性確保や連絡できるIC設置」(136件)を求める意見も多く寄せられた。
- ・他に宿毛湾や宇和海の美しい景観に配慮するべきとの重要な意見も寄せられた。(31件)



○ルート帯案とインターチェンジ位置の考え方

【ルート帯案の考え方】

- ・国道56号の代わりとして、南海トラフ地震時の津波の影響を受けず、災害発生時に円滑な救命・救助活動を支援するため、地域の防災拠点施設と連絡ができ、避難場所としても活用できるとともに、大きな病院や宿毛湾港、流通施設、観光地等まで早くスムーズに移動することができる自動車専用道路によるバイパス案とする。

【インターチェンジ位置の考え方】

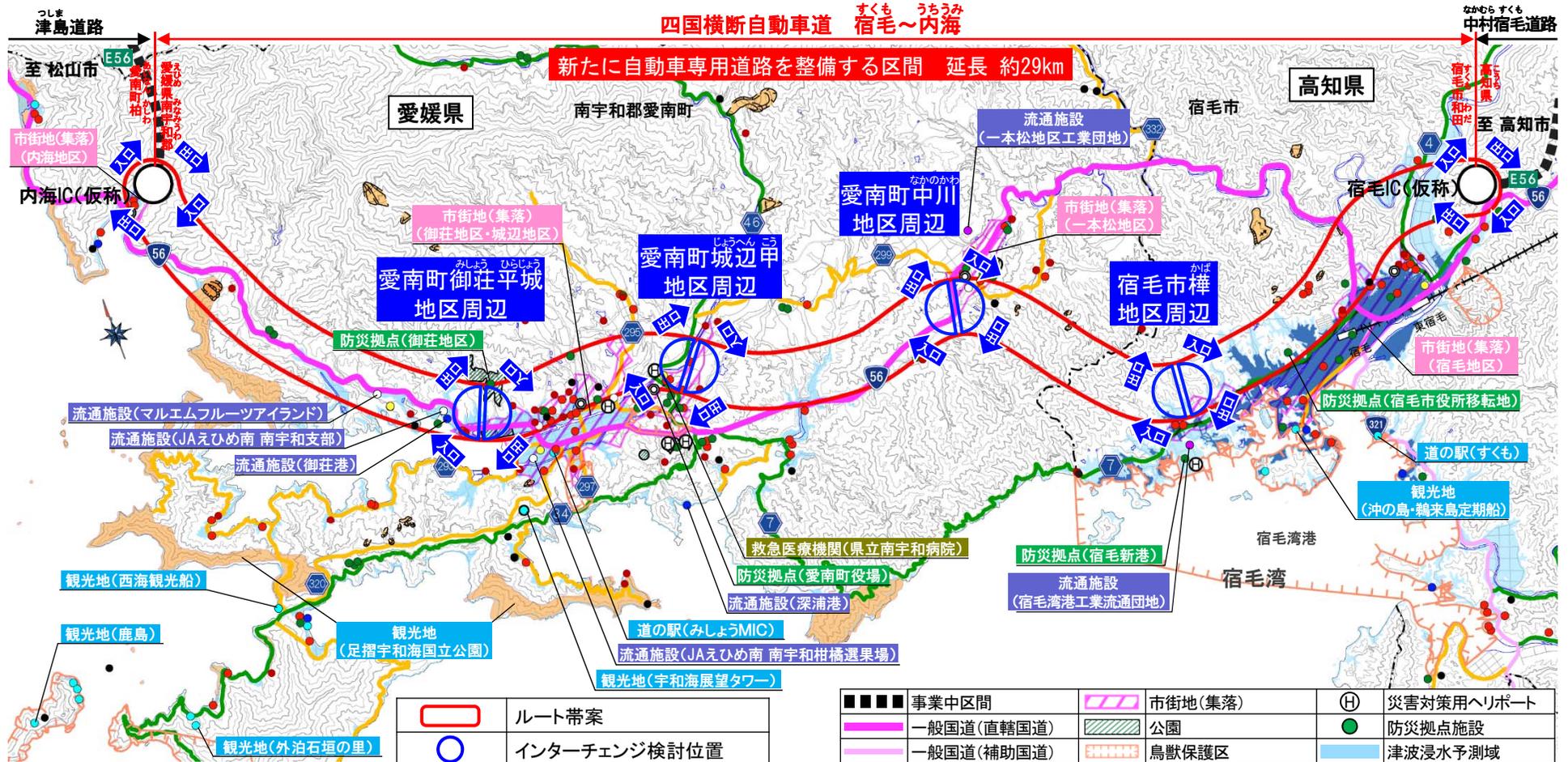
- ・地域の防災拠点施設や市街地(集落)、観光地や流通施設等と円滑に連絡できることに配慮した配置案とする。

【その他】

- ・詳細なルート・構造の検討にあたっては、自然環境や生活環境等への影響、整備期間の短縮、コスト縮減及び宿毛湾や宇和海の美しい景観に配慮する。
- ・地域の防災拠点施設との連絡方法、防災や観光の拠点となる休憩施設の整備については、今後、県及び市町と連携して検討を行う。

4. 対応方針(素案)の検討

- 津島道路と中村宿毛道路を新たに自動車専用道路で結ぶことで、地域の課題である南海トラフ地震による津波発生時に、国道56号の代わりとして地域の分断・孤立を解消し、円滑な救命・救助活動のアクセスを確保、避難場所としても活用できるとともに、地域の救急医療や産業及び観光振興を支援することのできる「案① 市街地(集落)との連絡性を優先するバイパス案」とする。
- インターチェンジの配置においては、宿毛～内海の起終点以外に、地域の防災拠点施設や市街地(集落)、観光地・流通施設等と円滑に連絡できることに配慮した位置とする。



災害対策用ヘリポート: 愛媛県・高知県の地域防災計画・災害時医療救護計画で指定されている災害対策用ヘリポート
 防災拠点施設: 愛媛県・高知県の防災拠点および愛南町・宿毛市の地域防災計画で指定されている二次避難施設
 津波浸水予測域: H24.12.10「【高知県版第2弾】南海トラフの巨大地震による震度分布・津波浸水予測について」および
 H25.6.10「愛媛県地震被害想定調査(第一次報告)について」公表資料を基に作成
 鳥獣保護区: 平成24年度 高知県鳥獣保護区等位置図(高知県)、国土政策局GISデータ
 名勝・史跡・天然記念物: 愛南町、宿毛市教育委員会資料
 公共施設: 公立学校(小・中・高・養護)、警察署、消防署、図書館、体育館、国・県・市町の事務所
 ※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基礎地図情報を使用した。(承認番号平29情使、第1097号)

	事業中間区間		市街地(集落)		災害対策用ヘリポート
	一般国道(直轄国道)		公園		防災拠点施設
	一般国道(補助国道)		鳥獣保護区		津波浸水予測域
	主要地方道		名勝・天然記念物		長期浸水想定範囲
	一般国道		史跡等		集荷場(農業協同組合)
	土佐くろしお鉄道		足摺宇和海国立公園		集荷場(漁業協同組合)
	県境		公共施設		病院
	市役所・町役場(支所)		道の駅や主要な観光施設		工業団地
	史跡等				
	公共施設				
	病院				
	道の駅や主要な観光施設				

5. 自治体への意見照会結果

■意見照会の回答(要旨)

自治体	意見
高知県	<p>○計画段階評価における四国横断自動車道「宿毛～内海」の対応方針（素案）について、同意します。</p> <p>○四国横断自動車道は、四国8の字ネットワークを構成する路線であり、平常時には、県西部地域の農林水産物などの安定した出荷やスポーツ合宿・大会の県外利用者の誘致拡大など産業や観光振興を図るとともに、災害時には、円滑な救援部隊の進出や緊急物資の輸送等を確保するために不可欠な社会基盤です。</p> <p>○とりわけ「宿毛～内海」間については、漁港や水産加工場へのアクセスが向上するルート帯案により今後整備されることで、鮮魚の近畿地方への更なる販路拡大につながります。</p> <p>○また、南海トラフ地震の津波や長期浸水により国道56号が寸断されることが想定されており、地震や津波に対して信頼性の高い高規格道路が、防災拠点港である宿毛湾港や市街地との連絡性を優先したルート帯案等で整備されることにより、地域の防災拠点施設との円滑な連絡が強化され、沿線地域の防災力の格段な向上につながります。</p> <p>○県としましても、地域経済の活性化を支え県民の皆さまの安全で安心な生活に不可欠な四国8の字ネットワークの整備促進に向け、沿線自治体や隣県とも連携し全力で取り組んでまいりますので、早期に事業着手されますよう、特段のご配慮をお願いいたします。</p>
愛媛県	<p>○四国横断自動車道「宿毛～内海」における計画段階評価の対応方針（素案）について、同意します。</p> <p>○「宿毛～内海」間の唯一の幹線道路である国道56号は、海沿いにあり、発生確率が高くなっている南海トラフ地震等の津波浸水により、寸断の恐れがあります。</p> <p>○また、昨年7月の豪雨災害においても、高速道路がいち早く復旧し、避難・救援や緊急物資の輸送等に大きく貢献したことから、道路ネットワークの強靭化や多重性の確保の必要性が改めて認識されたところでもあります。</p> <p>○当該道路は、地域の安全・安心を支える「命の道」であり、また、地域産業の販路拡大や観光振興を支える「地方創生の道」として多様な効果が期待できますことから、地域住民はもちろん、県民の悲願でもある当該事業の計画段階評価を早期に終え、一日も早い新規事業採択がなされますよう、特段のご配慮をお願いします。</p> <p>○なお、本県としましても、関係自治体との緊密な連携の下、できる限り事業に協力してまいりますことを申し添えます。</p>

■意見照会の回答(要旨)

自治体	意見
宿毛市	<p>○四国横断自動車道 宿毛～内海における四国地方整備局としての対応方針（素案）については、異存ありません。</p> <p>○物流拠点である宿毛湾港や市街地（集落）等との連絡性、大規模災害時には国道56号の代替路となり、防災拠点港・宿毛湾港や防災拠点・宿毛市庁舎（予定）と連携し、避難・救援ルートとなる『案①』のルート帯及びインターチェンジ位置が妥当と考えます。</p> <p>○四国横断自動車道（宿毛～内海）は、四国8の字ネットワークを構成する幹線道路であるとともに、四国西南地域の基幹産業の振興、地域の自然や歴史的資源を活かした観光の振興、救急医療の体制強化、災害時の避難・救援の活動強化となる重要な社会資本です。特に南海トラフ地震発生時には、本市では最大25mの津波高が予想され、広範囲の長期浸水も懸念されているため、地域の防災拠点施設と地震・津波等の影響を受けない信頼性の高い四国横断自動車道との連絡は、住民の生活・生命を守るうえで必要不可欠です。</p> <p>○本市としましても、円滑な事業の推進につきまして、できる限りの協力をいたしますので、計画段階評価などの必要な手続きを速やかに終わられ、早期に事業着手されますよう特段の配慮をお願いいたします。</p>
愛南町	<p>1 ルート帯について 大規模災害発生時の国道56号寸断時、円滑な救命・救助活動のため地域の防災拠点活動施設と連絡ができる、市街地（集落）との連絡性を優先した「案①」が妥当と考えます。なお、詳細なルート、構造の検討にあたっては、自然環境や生活環境等への配慮をお願いします。</p> <p>2 インターチェンジについて 愛南町が要望してきた、旧町3箇所へのインターチェンジの設置にあたっては、本町の意向に配慮して頂いた案となっており、深く感謝いたしますとともに、異存ないことも申し添えます。</p> <p>3 休憩施設について 「宿毛～内海」間の整備の際、防災機能や地域交流機能を併せ持った休憩施設（道の駅等）の整備を御荘地区に検討しており、接続性も含めた詳細な協議、調整をよろしくお願いします。</p> <p>4 その他意見 四国横断自動車道（宿毛～内海）は、四国西南地域が活力に満ちた、自律的で持続的な地方を創生していくための重要な道路です。また、国土の強靱化にも欠かせない社会資本であり、近い将来確実に襲ってくる南海トラフ地震では、住民の生命を守る重要な役割を担うものであることから、愛南町としても、精一杯の協力をしていく所存ですので、「宿毛～内海」間の早期事業化が図られますよう特段のご配慮をお願いします。</p>

■意見照会の回答(高知県知事・愛媛県知事)

30 高道路第 689 号
平成 31 年 2 月 6 日

国土交通省 四国地方整備局長 様

高知県知事 尾崎 正直

道路事業の計画段階評価に係る意見照会について (回答)

平素は、本県の道路行政の推進につきまして、格別のご協力をいただき厚くお礼を申し上げます。

さて、平成 31 年 2 月 4 日付け国四整道計第 26 号で照会のありましたうえのことにつきまして、下記のとおり回答致します。

記

計画段階評価における四国横断自動車道「宿毛～内海」の対応方針(素案)について、同意します。

四国横断自動車道は、四国 8 の字ネットワークを構成する路線であり、平常時には、県西部地域の農林水産物などの安定した出荷やスポーツ合宿・大会の県外利用者の誘致拡大など産業や観光振興を図るとともに、災害時には、円滑な救援部隊の進出や緊急物資の輸送等を確保するために不可欠な社会基盤です。

とりわけ「宿毛～内海」間については、漁港や水産加工場へのアクセスが向上するルート帯案により今後整備されることで、鮮魚の近畿地方への更なる販路拡大につながります。

また、南海トラフ地震の津波や長期浸水により国道 56 号が寸断されることが想定されており、地震や津波に対して信頼性の高い高規格道路が、防災拠点港である宿毛湾港や市街地との連絡性を優先したルート帯案等で整備されることにより、地域の防災拠点施設との円滑な連絡が強化され、沿線地域の防災力の格段な向上につながります。

県としましても、地域経済の活性化を支え県民の皆さまの安全で安心な生活に不可欠な四国 8 の字ネットワークの整備促進に向け、沿線自治体や隣県とも連携し全力で取り組んでまいりますので、早期に事業着手されますよう、特段のご配慮をお願いいたします。

30 道建第 228 号
平成 31 年 2 月 5 日

国土交通省
四国地方整備局長 様

愛媛県知事 中村 時広

道路事業の計画段階評価に係る意見照会について (回答)

平成 31 年 2 月 4 日付け国四整道計第 26 号で照会がありました四国横断自動車道 宿毛～内海の計画段階評価に係る意見照会について、下記のとおり回答します。

記

四国横断自動車道「宿毛～内海」における計画段階評価の対応方針(素案)について、同意します。

「宿毛～内海」間の唯一の幹線道路である国道 5 6 号は、海沿いにあり、発生確率が高まっている南海トラフ地震等の津波浸水により、寸断の恐れがあります。

また、昨年 7 月の豪雨災害においても、高速道路がいち早く復旧し、避難・救援や緊急物資の輸送等に大きく貢献したことから、道路ネットワークの強靱化や多重性の確保の必要性が改めて認識されたところでもあります。

当該道路は、地域の安全・安心を支える「命の道」であり、また、地域産業の販路拡大や観光振興を支える「地方創生の道」として多様な効果が期待できますことから、地域住民はもちろん、県民の悲願でもある当該事業の計画段階評価を早期に終え、一日も早い新規事業採択がなされますよう、特段のご配慮をお願いいたします。

なお、本県としましても、関係自治体との緊密な連携の下、できる限り事業に協力してまいりますことを申し添えます。

■意見照会の回答(宿毛市長・愛南町長)

宿土第741号
平成31年 2月 4日

国土交通省四国地方整備局長 様

宿毛市長 中平 富彦 

道路事業の計画段階評価に係る意見照会について (回答)

平成31年2月4日付け国四整道計第26号で照会のありました、四国横断自動車道宿毛～内海 における四国地方整備局としての対応方針(素案)における意見照会につきまして、下記のとおり回答いたします。

記

四国横断自動車道 宿毛～内海 における四国地方整備局としての対応方針(素案)については、異存ありません。

物流拠点である宿毛湾港や市街地(集落)等との連絡性、大規模災害時には国道56号の代替路となり、防災拠点港・宿毛湾港や防災拠点・宿毛市庁舎(予定)と連携し、避難・救援ルートとなる『案①』のルート帯及びインターチェンジ位置が妥当と考えます。

四国横断自動車道(宿毛～内海)は、四国8の字ネットワークを構成する幹線道路であるとともに、四国西南地域の基幹産業の振興、地域の自然や歴史的資源を活かした観光の振興、救急医療の体制強化、災害時の避難・救援の活動強化となる重要な社会資本です。特に南海トラフ地震発生時には、本市では最大2.5mの津波高が予想され、広範囲の長期浸水も懸念されているため、地域の防災拠点施設と地震・津波等の影響を受けない信頼性の高い四国横断自動車道との連絡は、住民の生活・生命を守るうえで必要不可欠です。

本市としましても、円滑な事業の推進につきまして、できる限りの協力をいたしますので、計画段階評価などの必要な手続きを速やかに終わられ、早期に事業着手されますよう特段の配慮をお願いいたします。

30愛建発第1449号
平成31年2月4日

国土交通省四国地方整備局長 様

愛媛県南宇和郡愛南町長 清水 雅文 

道路事業の計画段階評価に係る意見照会について (回答)

平成31年2月4日付け国四整道計第26号で照会のありました、四国横断自動車道(宿毛～内海)における対応方針(素案)における意見照会について、次のとおり回答いたします。

- 1 ルート帯について
大規模災害発生時の国道56号寸断時、円滑な救命・救助活動のため地域の防災拠点活動施設と連絡ができる、市街地(集落)との連絡性を優先した「案①」が妥当と考えます。なお、詳細なルート、構造の検討にあたっては、自然環境や生活環境等への配慮をお願いします。
- 2 インターチェンジについて
愛南町が要望してきた、旧町3箇所へのインターチェンジの設置にあたっては、本町の意向に配慮して頂いた案となっており、深く感謝いたしますとともに、異存ないことも申し添えます。
- 3 休憩施設について
「宿毛～内海」間の整備の際、防災機能や地域交流機能を併せ持った休憩施設(道の駅等)の整備を御荘地区に検討しており、接続性も含めた詳細な協議、調整をよろしくお願いたします。
- 4 その他意見
四国横断自動車道(宿毛～内海)は、四国西南地域が活力に満ちた、自律的で持続的な地方を創生していくための重要な道路です。また、国土の強靱化にも欠かせない社会資本であり、近い将来確実に襲ってくる南海トラフ地震では、住民の生命を守る重要な役割を担うものであることから、愛南町としても、精一杯の協力をしていく所存ですので、「宿毛～内海」間の早期事業化が図られますよう特段のご配慮をお願いします。

6. 対応方針(案)のまとめ

1. 道路整備の必要性

政策目標を実現できる道路整備を検討

【政策目標】

- ①南海トラフ地震等に備えた信頼性の高いネットワークの確保
 - ・代替路の確保
 - ・防災拠点施設や避難路との連携
- ②物流・防災拠点「宿毛湾港」への円滑なアクセス確保による地域力強化を支援
- ③速達性・走行性の向上により産業振興を支援
- ④地域間の交流促進により広域的な観光振興を支援
- ⑤救急医療機関への速達性の向上や安静搬送、走行性向上による交通事故の減少



- 当該地域は、南海トラフ地震発生時に、最大震度7、最大津波高は愛南町で16m、宿毛市で25mが予測され、国道56号の約2割が浸水すると予測されている。また、国道56号は急カーブや急勾配箇所が多数あり、地域住民の方の日常の通行、救急搬送及び農産品の輸送などに支障をきたしている。
- 地震津波発生時に地域の分断・孤立を解消し、円滑な救命・救助活動のアクセスを確保、また、地域住民の方の安全性・利便性の向上及び地域の産業・観光振興を支援するためには、信頼性・速達性・走行性に優れた道路の整備が急がれる。
- 地域住民等アンケートや団体等ヒアリングにおいても、国道56号の代わりとして津波の影響を受けず、円滑な救命・救助活動を支援するため、地域の防災拠点施設と連絡ができ、避難路と連携し一時的に避難場所として活用できるとともに、大きな病院、宿毛湾港、流通施設、観光地まで早くスムーズに移動できる道路が重要という意見が多く、このような政策目標を実現できる道路の早期整備が強く望まれている。

2. 対応方針(案)

(1)ルート帯について

『案① 市街地(集落)との連絡性を優先するバイパス案』を対応方針(案)とする。

【理由】

- 案①及び案②は、案③に比べ、全ての政策目標の達成が見込め、「国道56号の代わりとして利用できること」という点で優れている。
- 案①は、案②に比べ、「災害発生時に、円滑な救命・救助活動を支援するため、地域の防災拠点施設と連絡ができること」という点で優れており、日常はもとより、地震・津波などの災害発生時においても信頼性・速達性・走行性に優れた道路ネットワークを形成することができる。

(2)インターチェンジ位置について

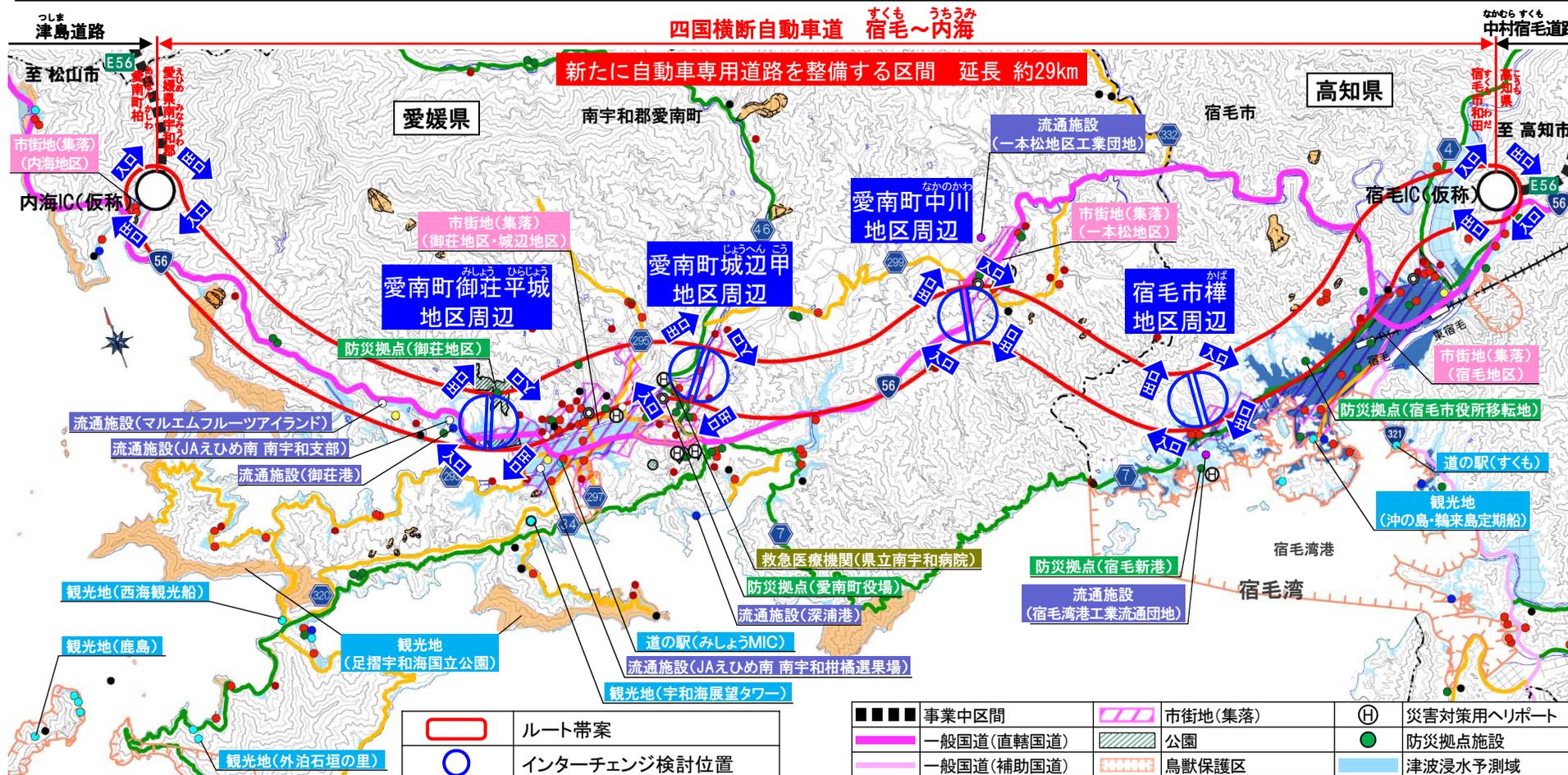
- 地域の防災拠点施設や市街地(集落)、観光地、流通施設等と円滑に連絡できることに配慮した配置案とする。

3. その他

- 詳細なルート・構造の検討にあたっては、自然環境や生活環境等への影響、整備期間の短縮、コスト縮減及び宿毛湾や宇和海の美しい景観に配慮する。
- 地域の防災拠点施設との連絡方法、防災や観光の拠点となる休憩施設の整備については、今後、県及び市町と連携して検討を行う。

6. 対応方針(案)のまとめ

- 津島道路と中村宿毛道路を新たに自動車専用道路で結ぶことで、地域の課題である南海トラフ地震による津波発生時に、国道56号の代わりとして地域の分断・孤立を解消し、円滑な救命・救助活動のアクセスを確保、避難場所としても活用できるとともに、地域の救急医療や産業及び観光振興を支援することのできる自動車専用道路を整備。
- インターチェンジの配置においては、宿毛～内海の起終点以外に、地域の防災拠点施設や市街地(集落)、観光地・流通施設等と円滑に連絡できることに配慮した位置とする。



災害対策用ヘリポート: 愛媛県・高知県の地域防災計画・災害時医療救護計画で指定されている災害対策用ヘリポート
 防災拠点施設: 愛媛県・高知県の防災拠点および愛南町・宿毛市の地域防災計画で指定されている二次避難施設
 津波浸水予測域: H24.12.10「【高知県版第2弾】南海トラフの巨大地震による震度分布・津波浸水予測について」および
 H25.6.10「愛媛県地震被害想定調査(第一次報告)について」公表資料を基に作成
 鳥獣保護区: 平成24年度 高知県鳥獣保護区等位置図(高知県)、国土政策局GISデータ
 名勝・史跡・天然記念物: 愛南町、宿毛市教育委員会資料
 公共施設: 公立学校(小・中・高・養護)、警察署、消防署、図書館、体育館、国・県・市町の事務所
 ※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した。(承認番号平29情使、第1097号)